

令和6年度
(2024年度)

長崎大学経済学部
「インターンシップ」報告書

長崎大学経済学部

目 次

	ページ
令和6年度「インターンシップ」実施概要	1
実施事業所、参加学生数、スケジュール概況	
「インターンシップ」レポート	3
I G会計グループ	4
株式会社デンソーソリューション	10
株式会社不動技研ホールディングス	13
財務省 長崎財務事務所・長崎税関	14
株式会社 KPG HOTEL&RESORT i+Land nagasaki	16
株式会社イシマル	17
株式会社チョープロ	18
株式会社十八親和銀行	19
株式会社長崎銀行	23
厚生労働省 長崎労働局	24
大村市役所	25
長崎県	27
長崎市役所	40
参考資料	44
シラバス「インターンシップ」	45
インターンシップ 経済学部独自実施分の受入企業一覧	47
2024年度 経済学部「インターンシップ」スケジュール	48

令和6年度「インターンシップ」実施概要

[実施した事業所、参加学生数等（延べ数）]

（経済学部による独自実施分）

企業（事業所）： 4 実習学生数： 11名

I G会計グループ、株式会社デンソーソリューション九州支社、株式会社不動産技研ホールディングス、財務省長崎財務事務所・長崎税関

（長崎インターンシップ推進協議会（長崎県）による実施分）

企業（事業所）： 10 実習学生数： 31名

I G会計グループ、株式会社 KPG HOTEL&RESORT i+Land nagasaki、株式会社イシマル、株式会社チョープロ、株式会社十八親和銀行、株式会社長崎銀行、厚生労働省長崎労働局、大村市役所、長崎県、長崎市

（学生による自主開拓分）

企業（事業所）： 0 実習学生数： 0名

【合計】

13企業（事業所） 実習学生 42名

※上記のほか、実習学生の体調不良のため、受入先決定後に

1企業（事業所）1名の実習が中止となった。

[「インターンシップ」申込者・実習生数（延べ数）]

募集区分 \ 学生数	申込者数			実習生数		
	男	女	計	男	女	計
経済学部による独自実施分	4	7	11	4	7	11
長崎インターンシップ推進協議会による実施分	21	11	32	20	11	31
学生による自主開拓分	0	0	0	0	0	0
合計	25	18	43	24	18	42

[スケジュール概況]

	経済学部独自実施分	長崎インターンシップ推進協議会 (長崎県) 実施分	学生による自主開拓分
3月		■インターンシップ募集要項公開 (推進協議会ホームページ)	
4月	■インターンシップ説明会の周知 ■経済学部による独自開拓企業等 へインターンシップの受入れ について依頼	■インターンシップ説明会の周知 ■1次募集開始	■インターンシップ説明会の周知
5月	■インターンシップ説明会実施 ■経済学部による独自開拓企業等 公開 ■募集開始 ■夏季集中講義「インターンシ ップ」受講申込み	■インターンシップ説明会実施 ■1次募集マッチング結果通知	■インターンシップ説明会実施 ■自己開拓に関する書類提出受付
6月	■マッチング結果通知 ■自己紹介書・誓約書提出	■インターンシップ説明会実施 ■2次募集開始 ■2次募集マッチング結果通知 ■夏季集中講義「インターンシ ップ」受講申込み ■自己紹介書・誓約書提出	■夏季集中講義「インターンシ ップ」受講申込み ■自己紹介書・誓約書提出
7月	■インターンシップ事前指導 ■受入企業等と覚書(協定書)の 締結	■インターンシップ事前指導 ■受入企業等と覚書(協定書)の 締結	■インターンシップ事前指導 ■受入企業等と覚書(協定書)の 締結
8月	■各受入先でインターンシップ 実施	■各受入先でインターンシップ 実施	■各受入先でインターンシップ 実施
9月	■各受入先でインターンシップ 実施 ■レポート・日誌等の提出・受理 ■インターンシップ事後指導 ■「インターンシップ」成績通知	■各受入先でインターンシップ 実施 ■レポート・日誌等の提出・受理 ■協議会アンケートの提出 ■インターンシップ事後指導 ■「インターンシップ」成績通知	■各受入先でインターンシップ 実施 ■レポート・日誌等の提出・受理 ■インターンシップ事後指導 ■「インターンシップ」成績通知

「インターンシップ」レポート

【IG 会計グループ】

私は、8月19日から23日までの5日間、IG 会計グループのインターンシップに参加した。このインターンシップに参加しようと思った一番大きな理由は、経営や会計に興味があったからだ。IG 会計グループでは、会計事務所としての会計業務はもちろん、経営コンサルティング業務も行っている。会計だけでなく、経営についても、自分がこれまで学んできた知識を活かしつつ業務体験ができるということに魅力を感じ、参加を決めた。このインターンシップを通して経営と会計の業務体験を行い、自分がこれまで学んできた内容や知識が業務でどのように活用されているのかなどを知り、経営や会計に関してより深い理解を得たいと考えていた。

この5日間で、専門的な知識を深めるための研修だけではなく、それらの知識を活かした経営コンサルティング業務の見学やイベント参加などの実務に近い形の業務体験も行った。

初めの2日間は、企業説明や租税講座、決算書の読みとり方などを、研修を通して学んだり、それらで得た会計の知識を使ってソフトウェアを用いた経営コンサルティング業務の模擬体験を行い、赤字企業に対する経営戦略を考えたりした。この模擬体験では、決算書などのお金の流れから経営状態を読み取って戦略を考える必要があった。経営や会計のお仕事に取り組むにあたって、会計用語やその意味を理解しておくことだけではなく、それがどのような働きを持つのかなどの知識や根本的な理解が必要であるということ学んだ。

インターンシップ後半では、IG 会計グループの顧問先訪問に同行して経営戦略会議に参加したり、IG 会計グループが行っている、「将軍の日」というイベントに参加し、経営計画作成の場面に立ち合ったりした。顧問先訪問でも、将軍の日のイベントでも、IG 会計グループの方が会計知識を用いた経営コンサルティング業務を行っている姿を間近で見ることができた。経営コンサルティング業務を行っている場面はもちろん、経営戦略会議や経営計画自体を見ることがすら初めてだったため、考えることや学ぶことが多く、このインターンシップに参加して良かったと、このとき改めて思った。どちらでも、会計知識を生かした提案を行ったり、それに対するお客様の意見や想いを踏まえて再度考えたりする場面が何度もあり、真剣に考える時間が非常に長く、仕事の大変さを感じた。また、そのような中で、毎回、最終的にはお客様が納得できるような解決策を導き出すことができていた、IG 会計グループの方たちは素晴らしいなとも思った。

IG 会計グループでの5日間のインターンシップを通して、経営や会計に対する知識や理解をより深めることだけではなく、「働くこと」に対するイメージを良い方向に変えることもできた。これまでは、働くことはお金を稼ぐための手段であるというイメージが強かった。また、仕事に対して「やりがい」を感じるという感覚も、ほとんどわからなかった。しかし、インターンシップの中で、顧客先訪問や「将軍の日」のイベントなどのお客様とかかわる機会があったが、そこで自分なりの考えを伝えて見て少し納得していただいたときなどに、何度か嬉しいような、達成感のような感覚を感じることもあった。その時に初めて、それが「やりがい」なのだと気づいた。そして、お客様との関わりやお仕事を行う中で、このような「やりがい」を感じるからこそ、熱心に働くことができるのだと理解することができた。この経験から、私も2年後にはやりがいを沢山感じながら働きたいと心から考えるようになった。

【IG 会計グループ】

今回の IG 会計グループ様でのインターンシップは、私にとって税務・会計業界への興味を一層深める大変貴重な経験となりました。私が志望する会計業界は単なる数字の処理だけでなく、クライアントの経営全体を見渡しながら、的確なアドバイスを提供する力が求められます。このインターンシップを通じて、その具体的な実務を学び、税務の重要性を再確認することができました。

まず、IG 会計グループ様の業務の中で、税務申告書の作成や書類管理といった基本的な業務に触れる機会を得ました。特に会計ソフトを使用した入力作業や税務書類の作成をさせていただいた際には、ミスが許されない正確さと効率性が求められることを実感しました。このような業務の中で、時間管理や優先順位の付け方といったビジネススキルも身に付き、実際の仕事に直結する経験を積むことができました。

さらに、IG 会計グループ様が税務だけでなくコンサルティング業務にも力を入れている点が、私にとって非常に印象的でした。税理士は税務申告や会計業務だけでなく、クライアントの経営状況や財務戦略に対して助言を行い、企業の成長をサポートする役割も担っています。今回のインターンシップでは、実際にクライアントへのアドバイスを行う場面に同席する機会があり、税務戦略の提案や企業の問題解決に向けた具体的な業務を学びました。税務に関する知識だけでなく、クライアントのニーズを的確に理解し、それに応じたコンサルティングを提供する姿勢が重要であることを実感しました。

また、税務の実務を通じて、法律や税制の変化に対する柔軟な対応が不可欠であることも学びました。税制は毎年のように変更があり、その変化に素早く対応するためには、最新の知識を常にアップデートすることが求められます。税理士事務所では、日々新しい情報を取り入れ、顧客に対して最善のアドバイスを提供するために学び続ける姿勢が重要であることを理解しました。それに伴い IG 会計グループ様では週一回のミーティングと毎朝の朝礼での情報交換をされていました。これにより、税理士の仕事が単なるルーティンワークではなく、常に変化するビジネス環境に適応しながら専門知識を活かす職業であると強く感じました。

インターンシップを通じて、IG 会計グループ様のスタッフの方々がプロフェッショナルとして働く姿勢や、クライアントとの信頼関係を築くためのコミュニケーションの取り方を間近で見ることができたことも大きな学びでした。特に、クライアントからの質問や要望に対して迅速かつ丁寧に対応する姿勢は、信頼を得るために欠かせない要素だと感じました。私はインターンシップ生という立場での参加でしたが、事務所の皆さんが親切にサポートしてくださり、わからないことがあればすぐに質問できる環境が整っていたため、不安なく業務に取り組むことができました。

今回のインターンシップで得た経験は、税務に関する専門知識だけでなく、クライアントとのコミュニケーションやコンサルティングの重要性も学び、税理士という職業が企業の成長や課題解決に深く関わるやりがいのある仕事であることを強く実感することができました。今後もさらに学びを深めていきたいと感じました。

【IG 会計グループ】

私は、8月19日から8月23日の5日間、IG 会計グループのインターンシップに参加しました。インターンシップに参加した理由は、元々税務や会計といった仕事に興味があったのと、将来進みたい進路が決まっていなかったので、インターンシップの経験を通して今後の進路決定の糧にできればと考えたからです。

5日間を通して、そもそもの決算書の見方や仕訳の入力、残高試算表の作成といった業務体験、将軍の日セミナーでの中期経営計画立案の様子を見学させていただきました。その中で特に三日目の将軍の日セミナーが自分の中で特に印象に残っています。企業の社長さんと IG 会計グループの担当者がお互いに意見を交える上で社長さん側は業界事情を担当者側は数字の計算といったように、それぞれが持つ知識を合わせ協力することでより効果的な経営計画の改善案を生み出せることを学び、コンサルティングにおいてチーム内での役割分担や情報を共有することの受容性を実感しました。

また、今回のインターンシップを通して見えてきた自分の課題として基本的な専門知識から不足している部分が多くあると感じました。その部分を更に学習して知識を埋めていきたいと思います。更に、日頃行っているコミュニケーションにおいても相手のニーズを意識することが大事だとも感じました。自分は飲食店でアルバイトをしているため、日々の接客においても丁寧な接客を心がけていきたいと思います。

最後に、IG 会計グループで働く従業員さんの話を聞く中で「働くこと」についてのお話を伺う機会がありました。その中で、「自分が好きなものを仕事にすることも良いが、こういった部分が好きなのか細かく分析することが大切」だと仰っていました。自分は進路が未定であるため、今後進路を決めていく上で今までアバウトだった自己分析をもっと深堀していきたいと思います。今回の意見を活かし、今後の就職活動を進めていきます。

【IG 会計グループ】

私は、8月19日から8月23日の5日間、IG 会計グループ様のインターンシップに参加させていただきました。大学の講義程度で学んだ「会計」という学問は、特に私の印象に残るものではなかった。しかし、大学の講義が将来の判断材料のすべてではないと考え、実務でどのように会計を活かしているのか知ることが、今回のインターンシップの参加理由である。情報収集は、インターネットを利用してある程度できていたつもりであったが、実際に現場をみて、体験させていただくことで、会計がどんなものかであったり、私にあっていいのかであったりをリアルに感じたいと考えていた。

結論から述べると、今までの経験だけで業界を決めるのはもったいないと考えさせられた。IG 会計グループの会計が全国的にも珍しいコンサルティングを行っていたことや会計事務所に勤務する社員様の仕事に密着すると、中小企業のお客様のもとに向かって中長期経営計画をプランニングするなど、意外にも足を動かして対面で仕事するところを知った。

1日目は、IG 会計グループについての説明と租税についてのセミナーを体験した。税理士の中でも経営コンサルティングに関わる仕事に強みを持っており、地域特化を含めた2軸は全国的にも非常に珍しく、東京からわざわざセミナーにお越しになる税理士の方もいらっしゃるとお聞きした。AIを交えた議論の際に、AIが単純な作業を膨大な量こなすことで、人はその処理された情報データでより高度な仕事を必要とされると聞いて、今後の税理士の仕事像はIG 会計グループのように転換するのではないかと考えた。

2日目からは、4日目に予定されていた将軍の日に向けたセミナーが中心であった。将軍の日は、顧問先の中小企業の社長や幹部の方々と経営状況を踏まえながら今後5年間の経営計画を作成する日である。そのために、決算書の見方や会計コンサルタントとしての業務を学ぶことで、将軍の日にIGの社員様がどのようなことをしているのかより詳しくインターン生が理解できた。この日は、決算書の見方やコンサル業務について詳しく学んだ。現時点から理想までの差を問題としてPDCAを設定するのは言葉では簡単であるが、ここに数値計画という税理士ならではの強みを生かした経営コンサルティングのやり方があった。

4日目は、将軍の日であった。年間売り上げ目標を設定して、そこに向けた行動を逆算して数値や行動に落とし込む経営者とIG社員の姿に圧倒された。また、コンサルは顧問先の現場の状況を知っておく必要があり、数字を提示してそれを達成するために何をしたら良いのかという提案まで具体的に説明することがとても重要であった。

5日目は、財務コンサルティングの説明と振り返りであった。会計の仕事は、事務所でパソコンに数値を打ちながら正誤を確認するイメージから、実際にそれを基に顧問先に向かって、経営を安定させるために異常な数字を見つけ、そこから読み解いた問題とその解決案を提案することになった。特にこの5日間で社員の方と長崎県内の様々な中小企業に携わってきたお話を伺って、長崎県を支えている企業の一つであるところがこの仕事を選ぶ面白さであると感じた。

【IG 会計グループ】

私は、8月19日から8月23日の5日間、IG 会計グループのインターンシップに参加させていただきました。このインターンシップに参加した理由は、会計事務所の業務をより詳しく知りたいと思ったからです。私は大学で簿記や会計の科目を履修する中で、会計や税務の仕事に興味を持ち、1年生と2年生の春休みにIG 会計グループでアルバイトをさせていただきました。3年生になり就職活動を始め、様々な業界を見ている時に、長崎県インターンシップ推進協議会のインターンシップ募集を知り、アルバイトでは分からない業務内容を深く理解したいと思い、参加しました。

インターンシップ1日目は、全体朝礼に参加した後、会社や業界の説明、租税教室、税金計算を行いました。2日目は、決算書の見方・活かし方や会計コンサルティング業務について学びました。3日目は将軍の日セミナーに参加し、4日目は業務体験を行いました。最終日は税務コンサルティングを学んだ後、ランチ会があり、振り返りや座談会が開かれました。

このインターンシップを通して、私は大きく2つのことを学びました。

1つ目は、決算書から様々なことが読み取れるということです。2日目に決算書の見方・活かし方を学び、貸借対照表や損益計算書の説明や自己資本比率などの計算を行いました。その後、グループワークで架空の企業の比率などの計算をして、なぜ赤字なのかや社長への質問や改善の提案を考えました。その際、決算書のどこを見れば良いのかが分からず、色んな意見を出しながら結論を導きました。他のグループや模範解答を聞き、自分たちが見ていなかった部分が多くあり、数字からこんなに情報が読み取れるのかと驚きました。

2つ目は、知識を吸収し学び続けることが大切だということです。今回のインターンシップでは知識が足りないことを何度も痛感しました。特に、将軍の日セミナーでは社長さんと社員さんが話している内容が分からないことが多く、言葉の意味や数字が何を表しているのかをもっと知っていれば学べるが多かったと思います。また、税務コンサルティングについて講義してくださった方も様々な知識を持っていないといけないと仰っていましたし、社長さんや経理の方に説明する際に知識がなければ、質問に答えられないなど信用を失うことにもなると思います。そのため、常にアンテナを張って、学び続ける意欲が必要だと感じました。

3つ目は、コミュニケーションの重要性です。2つ目に挙げた知識の習得だけでは、お客様の相談にのったり提案したりすることは難しいと思います。決算書の見方・活かし方では社員さんを社長さんに見立てて報告するような形で発表をしました。その際に偉そうにならないような話し方や言葉遣い、会計特有の言葉は使うだけではイメージできないので例をあげるなどを気をつけていると教えていただきました。コミュニケーションはお客様相手でも社内でも大切なのでこれからも磨いていきたいと思っています。

今回のインターンシップでは、グループワークや社長さんとお話しするなどの機会をいただき、上記以外にも様々なことを習得することができました。最初は不安なこともありましたが、11人の参加者と共に楽しく無事に5日間を終えることができ、社員さんには講義や準備をしていただき、関係者の方々には本当に感謝したいと思います。この5日間で学んだことを残りの大学生活、就職活動、社会人になってからも活かしていきたいと思っています。

【IG 会計グループ】

私は8月19日から23日までの5日間、IG 会計グループのインターンシップに参加させていただきました。このインターンシップに参加した目的は、会計事務所が行っている会計コンサルティング業務や未来会計とはどのようなものであるのかを知ること、会計業界の業務内容や会社の雰囲気を知り、実際に会計業界で働く人の話を聞くことです。また、これらのことを知り、体験したうえで、残りの大学生活で何をすべきかを考え、私が将来どのような仕事をしたいのかということを明確にしたいと思っていました。

5日間の研修では、「会社の概要」、「租税とは」、「決算書の見方」、「会計コンサルタントについて」、「中期経営計画立案教室への参加」、「会計ソフトへの入力」、「税務コンサルタントについて」を学び、経験させていただきました。これらの研修を通して学んだことは、会計事務所には代行業務やコンサルティング業務など様々な幅広い業務内容があるということ、財務諸表から様々なことが読み取れるということです。

特に、コンサルティング業務は必要な知識が財務、税務、労務と幅広く、また業界によっても各々の会社、経営者の方の考え方によっても状況や目安となる数値、目標数値等も異なるため、日々仕事をしていて成長できるだろうし面白そうだと感じました。また、実際にコンサルタントの方と経営者の方が中期経営計画を立案している現場を見学させていただき、コンサルタントの必要性を感じました。それは、中小企業にはそれぞれ目標やビジョンがあり、その目標やビジョンを達成するためには課題を見つけだし解決する計画を立て、修正・実行をしていかいなければいけないが、中小企業の経営者の方々がこれらのことを行うのは時間の面でも知識の面でも厳しいため、専門的な知識を持った税理士や会計コンサルタントの方々が税務業務や経営コンサルティング業務を行っているということです。また、コンサルティングをするにあたって、生成 AI から提案された案を参考にしたり、専門のソフトを使って売上分類や自社分析、売上・経費・設備投資計画を行うなど、情報化に伴う最新の技術を利用されており、これから会計業界で生き残っていくにはそれらの新技術を取り入れて活用していくことが重要だと感じました。

また、「決算書の見方」では、費用を変動費と固定費に分けることで利益予測や損益分岐点の計算が容易になり、さらに費用削減の判断にも役立つということを学びました。普段行っている簿記や会計の勉強では、計算と財務諸表の作成までしかできていなかったもので、その先の計算書から会社の財務状態を分析する方法の一部を知ることができ、より詳しくなりたと思いました。

「税務コンサルタントについて」では、「会社の経営者が引退するときに株式をどのように処理したら払わなければならない税金を減らせるか」という事例で、それぞれの処理を行った際に課される税の種類とそれぞれの計算を行い、社長に提案するための課題やその解決策の提案をグループワークで行い、税務相談業務の面白さを改めて実感しました。

私は、経営相談に乗ることができる税理士になりたいと考えておりましたが、どのように相談に乗るのかは明確ではありませんでした。しかし、この研修を通して、私は1つの企業の税務業務を担当するだけでなく、その企業が掲げる目標に向かって経営計画を共に立て、財務面・税務面のアドバイスを行えるようになりたいと将来像を明確にすることができました。

【デンソーソリューション】

私は、9月2日（月）から9月6日（金）の5日間、デンソーソリューションのインターンシップに参加させていただきました。当インターンシップを志望した理由は、まだあまり知らない業界について理解を深めたかったからです。私はあまり営業業界について調べることがなく、他の業界を見ていました。しかし、今の時期に業界を絞ってしまうことは少し危険だ感じていました。そこで、デンソーソリューションのインターンシップに参加して、知らない業界について知り、視野を広めたいと思い、志望させていただきました。

1日目は、営業について、会社、ビジネスマナーについての座学がありました。営業はどのようなことをするのか営業の基礎を学ぶことが出来ました。また会社について、BtoBの企業だけど、その先の消費者のことまで考えて営業を行うBtoBtoCを行っていることが分かりました。

2日目は、グルーワークを行いました。3つのチームに分かれて、就活生に向けて会社のことを伝えるための資料作りをしました。私は、働く環境について資料を作成しました。資料の内容をつくるために社員インタビューを行いました。そこで会社の福利厚生について詳しく聞きました。そこで、福利厚生の制度が充実していることと、社員の方の人柄がよく、働きやすいということが分かりました。そのインタビューをもとにまた資料を作成しました。

3日目は、社員の方の営業に同行させていただきました。営業に同行させていただいて、事前準備とヒアリングの大切さを学びました。営業先の方とキャンペーンの進捗状況とこれからの進め方についてお話されていました。キャンペーンの結果を表にまとめて伝えていたり、課題や心配事をヒアリングしていました。事前に資料などを準備して分かりやすくしたり、言いにくいことを言いやすい雰囲気や関係性を作ってお話されているのを見て、営業で必要なことを学びました。

4日目は、資料作成を進めました。4日目はオンラインでの開催だったので、意思疎通や疑問点を話し合うときに少しやりづらさや難しさを感じましたが、そこを乗り越えて、修正すべきところは修正して、チーム内では答えが出すことがないことは社員の方に聞くなどして、資料の修正を行いました。また会議の見学もさせていただきました。意見が飛び合う会議を見て、企業の会議がどのように行われているかが分かりました。課題に対する改善策を会議に参加している皆が意見を出していて、言いやすい雰囲気づくりや発想力があると分かりました。

5日目は、資料の最終確認をし、発表を行いました。これまでにもらってきたアドバイスや経験を基に資料を仕上げて発表しました。分かりやすく伝えられてと思うので良かったです。他のチームの発表を見て、みんな苦戦しながらも常に考えて、完成させていて分かりやすかったので学ぶものが多くありました。また、就活セミナーで他者評価をしてもらいました。今まで自己分析しかしてこなかったので、他の人から見た自分を評価してもらって、自己分析では分からなかった自分の長所や短所を知ることができてこれからの就活でPRできる自分が増えてよかったです。

今回のインターンシップを通して、常に考えることの大切さを学びました。分かりやすい資料を作成するために、社員の方を見て、何の力をつけるべきかなどこのインターンシップで常に考えることで多くの学びがありました。この経験を今後活かしていきたいです。

【デンソーソリューション】

私は、9月2日（月）～9月6日（金）の5日間、株式会社デンソーソリューション九州支社様でのインターンシップに参加させていただきました。当インターンシップを志望した理由は、プログラム内の「営業同行」に興味をもったからです。就職活動を進めていく中で営業職を候補にしておりましたが、実際働いている社員の方と関わり、より詳しい業務内容を知る貴重な経験だと思い、今回志望させていただきました。

1日目は、ビジネスマナーや業界・会社概要説明を受けました。昼休憩では、人事の社員の方とお話ししながら食事を楽しみ、その後グループワークを行いました。2日目もグループワークが中心でした。また、営業会議への参加や実際に働いている社員の方へのインタビューをすることができ、私が聞きたかったことを深掘りして聞くことができました。その中で特に、社員の皆さんが周囲の方々の人柄の良さを挙げていたのが印象に残っています。その後のグループワークでも活発的な話し合いをチーム内で行うことができ、充実した1日となりました。3日目は一番楽しみにしていた営業社員への同行がありました。私は女性社員の堀口さんという方に同行させていただいて、デンソーサービス店である那智商会様への上期キャンペーンの報告や営業実務者会議の事前打ち合わせに関する内容をお伺いしました。その後、実際に支店長とお会いしてインタビューをすることができ、デンソーソリューションに対する理解もさらに深まりました。4日目は、朝から営業会議に参加させていただきました。それぞれの社員さんが担当したヒアリング先の意見をもとに社内でも活発に会議の内容が決められていたのが印象に残っています。5日目は、最終日ということで活動発表会や模擬面接など盛りだくさんな一日でした。グループワークでは、これまで4日間で作成したスライドをさらにみんなの意見を取り入れて修正作業を行いました。昼休憩では、若手社員の方とご一緒し、今まで聞いたことがなかったデンソーソリューションの良さやエピソードを聞くことができ、とても貴重なお時間でした。活動発表会では、これまでのグループワークの集大成をみんなで自信を持って発表できました。

この5日間で、自分の中で新たな気づきや他の学生の価値観に触れることができ、本当に参加してよかったと感じました。また、今回のインターンシップでは多くの時間をグループワークに費やしましたが、他の学生に対して最初は距離がありました。しかし、自分からも積極的に意見を出し、お互いにも活発的な議論ができ、だんだんと本音で語れるようになりました。この経験から、何に対しても臆せず積極的に行動を起こすことを心がけ、異なる価値観や考え方を持つ学生や方々と積極的に関わっていきたいと考えました。この経験を忘れず、今後の就職活動にも生かしていきたいと思います。今回のインターンシップを企画・運営してくださったデンソーソリューションの方々、その前後でサポートしてくださった方々の皆様に心より感謝申し上げます。

【デンソーソリューション】

私は、9月2日から6日までの5日間、株式会社デンソーソリューション九州支社のインターンシップ研修に参加させていただきました。基本対面で、4日目のみオンラインで実施されました。この研修に参加した目的は、営業の具体的なイメージをすることや、BtoB企業の営業の魅力を知るためでした。元々営業に興味はあったのですが、ノルマが多そう、競争が激しそうなどのマイナスなイメージが多かったため、今回実際に営業の仕事を体験し、そのイメージが本当なのかを確かめるという意味でも志望させていただきました。

1日目は業界・会社説明を聞き、資料作成のグループ分けを行いました。グループワークのテーマは、就活生向けにインターンシップならではの会社紹介資料を作成するといったものでした。

2日目はグループワークに加え、実際の営業会議の参加や社員のインタビューを行いました。1,2日目を通して、営業の仕事に対して具体的なイメージをすることができました。

3日目は、営業同行体験と、支社長への質問を行いました。営業同行ではトヨタモビリティパーツ様に訪問し、拡販状況の確認を行いました。その際に、取引先の方と同じ目線に立ち課題を解決する姿や、雑談などでカジュアルに話している姿を見たり、社内での会話でデンソーソリューションでの働き方を聞いたりしたことにより、営業に対するマイナスなイメージが覆りました。

4日目はオンラインで実施され、営業会議の参加やデンソーソリューションの新規取り組み事業紹介の説明を聞きました。オンラインで1日過ごしてみて、対面の日よりも疲労感を強く感じたので在宅ワークはあまり自分には向いていないなと感じました。

5日目はグループワークでの資料の最終発表と、就活セミナーや模擬グループ面接を行いました。就活セミナーの他己分析で、5日間一緒に資料作成を行ったメンバーから長所と短所を教えてもらうという取り組みがありました。その際に、自分ではあまり気づけていなかった新たな自分の良いところに気づけたのでとても有意義な時間だなと思いました。特に、話す際に肯定から入っていた点や、レスポンス能力が高い点を多く褒めてもらったので自己PRの際に使っていきたいと思いました。また、自分の長所短所を周りの人10人に聞いてみると良いと勧められたので、それも実践してみようと思いました。模擬面接の際、企業の方からのフィードバックで、話すスピードを自分が思うよりもさらにゆっくり目に話す方が良いという助言を受けたので、次回以降の面接では気を付けたいです。

インターンシップを受けるまでは、なんとなく休みが多いところが良いな、都会に住みたいな等のぼんやりとしたものしかなかったのですが、今回のインターンシップを終えて、自分の就活軸が固まってきたなと感じています。また、営業の業務のイメージがプラスに変わったと共に、自分がPRしたいポイントである、「創意工夫し問題を解決する力」と営業の業務が被る点があるなと感じたので、今後企業を見る際に営業も多く見てみると良いのかなと思いました。

【不動技研ホールディングス】

私は、8月26日から8月30日までの5日間、株式会社不動技研ホールディングス様のインターンシップに参加させていただきました。今回のインターンシップに参加した理由は、経営企画や新卒採用活動の業務に興味があったからです。まず、経営企画の業務については言葉そのものにあまり馴染みがなく、インターネットで調べてみてもどのような業務をするのかイメージをすることができませんでした。今回のインターンシップを通して、業務内容を詳しく知りたいと思います。また、新卒採用活動の業務については就職活動を始めて、説明会で様々な企業の新卒採用担当の方のお話を多く聞くようになり、就活生が1番最初に会う人としてとても重要な仕事だと思い、興味を持ちました。今回のインターンシップでは、様々な業務を体験することができると思うので、自分の適性や興味を確認したいと思います。

1日目は、会議やオリエンテーション、経営企画や採用活動についての座学、定期券の購入への同行などを行いました。2日目は、勤怠管理や株主総会についての座学、社内報の作成、経理業務の説明がありました。3日目は、現金出納帳の入力や社会保険手続き、フォローアップ研修準備をしました。4日目は、台風の影響で自宅にて発表資料準備を行いました。最終日は、安全衛生に関する説明がオンラインであり、午後からインターンシップの成果報告会で発表を行いました。

私が今回のインターンシップで学んだり、感じたりしたことは2つあります。

1つ目は、社員の方が雰囲気よく、仕事に誇りを持って働いているということです。1日目の最初に会社に入った時、皆さんが挨拶してくださったり、話しかけてくださったりして緊張がほぐれました。その後も様々な場面で雰囲気が良いと感じることがあり、上司の方とコミュニケーションが取りやすく、分からないことをすぐに聞きやすい環境がいい雰囲気を作り出していると感じました。4日目は台風で出社することができませんでしたが、他の日は出社するのが毎日楽しみでそのような雰囲気を作ってくださったことに感謝しています。また、様々な業務担当の方に業務内容を説明していただきましたが、お話を聞いたり質問したりする中で、責任感を持って楽しく働いているのが伝わってきました。資格の勉強をされている方も多く、日々刺激を受けながら切磋琢磨しあえる環境がとても素敵だと思いました。

2つ目は、総務や経理の仕事は予想以上に多岐にわたり、幅広い知識が必要だと感じました。今まで具体的に何をするのか理解していなかった総務や経理の仕事を今回のインターンシップを通して知ることができ、経営企画や採用活動といった言葉1つでも細かく業務や作業があることを学びました。いくつかの業務を体験し、知識不足を実感したので、今後アルバイトや資格勉強を通して強化していきたいと思います。また、知識を得るだけでなく、他の社員の方から尋ねられた時に答えられるよう、噛み砕いて説明できるレベルまで深く学びたいと思いました。

今回のインターンシップを通して、自分が思っていた以上に総務や経理の仕事に興味があると感じました。総務や経理の仕事は何十年後に無くなると言われていることに不安がありましたが、経営企画などAIにはできない人間の力が発揮できる業務もあり、AIに取って代わられるかは人間次第だと不安を解消することができました。不安が解消され、自分の中ではっきりした興味を見出せたので、今後は軸をしっかり定め、将来や人生を考えていきたいと思います。

【長崎財務事務所・長崎税関】

私は、9月9日から9月13日にかけての5日間、長崎財務事務所・長崎税関で行われたインターンシップに参加させていただきました。今回のインターンシップでは、長崎財務事務所と長崎税務署、長崎税関を訪問し、業務内容の説明や疑似体験、職員との交流会など様々な活動を体験させていただきました。

今回のインターンシップを通して学んだことはたくさんありましたが、特に印象に残ったことは3点です。

1点目は、財務局での仕事内容の幅広さと、それに伴う職員たちの継続した学びの姿勢です。業務内容の説明の数は財務事務所が一番多く、それぞれの業務内容も全く異なっていて、様々な種類の仕事があることが感じられたため印象に残りました。予算執行調査や災害査定立会、国有財産の管理など、配属される課によって業務内容が異なるという点は、様々な業務をする仕事に就きたいと考えている自分にとって魅力的に映りました。また、人事異動により定期的に新しい業務に触れる機会があるため、ずっと学び続けることができ、それが仕事のやる気にもつながっているという話をしていた職員がいたことも印象に残った理由の1つです。

2点目は、長崎財務事務所で5日目に行われた国有財産管理業務の現地調査とグループワークです。国有財産管理業務とは、国が所有する土地の貸付、売却などを行う業務のことです。国が所有する土地の中でも、立地の不便さなどから借り手がおらず、管理費だけがかかってしまう土地について、現地調査ののちにその活用方法について考える活動を行いました。自分が普段暮らしている地域でこういった仕事が行われていたことに驚きを感じました。また、なんとなく堅いイメージを持っていた公務員の仕事が身近に感じられ、いい意味でのギャップを感じられたため印象に残りました。活用方法の検討の際には自分の案の引き出しの少なさを痛感し、自分が興味のないと思うような分野にもアンテナを張っておこうと思いました。

3つ目は、長崎税関で行われた麻薬探知犬のデモンストレーションです。日常生活で触れる機会のない仕事であったことや、実際の業務においての緊張感が体感できたことが印象に残った理由です。税関でのインターンシップは、他にも業務体験が多くあり、実務との距離感が近く感じられ、パンフレットや説明会だけでは知ることができないようなことを知ることができた点で参加して良かったと感じました。

今回のインターンシップでは、実際に働く職員とお話できる機会があったからこそ学べたことが多かったと感じます。また、グループワークなどで他のインターン生と協働する機会もあり、良い刺激を受けることができました。今回のインターンシップで深めた財務局・税関・国税の知識を今後の就職活動に活かしていきたいと思います。他にも選択肢を持っておくという意味で、他のインターンシップや説明会などにも積極的に参加していこうという気持ちが強まりました。

【長崎財務事務所・長崎税関】

私は、9月9日から9月13日まで長崎財務事務所と長崎税関の合同インターンシップに参加しました。今回インターンシップに参加した理由としては財務専門官の仕事に以前から興味を持っていたことがあげられます。インターンシップに参加することで職場の雰囲気や実際に職員の方がどのように業務にあたっているのかということを知りたく、今回参加させていただきました。

1日目は長崎財務事務所では金融業務や財政業務についての説明がありました。若手職員の方と話す機会があって、公務員試験のことから業務内容のことまでたくさん質問をすることができました。金融業務の説明では金融機関は国の経済を安定させるための重要な機関であり、財務専門官が金融機関の経営状態を把握し、監督しているということを知ることができました。財政業務の説明では国の予算に無駄がないかを調査するために職員の方が新聞から常日頃情報収集することを心掛けているということを知ることができました。

2日目は長崎税関で監視業務についての説明を聞きました。監視業務の見学では麻薬探知犬デモに参加し、実際に麻薬探知犬が麻薬を見つけ出す様子を見ました。麻薬探知犬は厳しい指導で訓練を受けているのだと思っていたのですが、実際は麻薬探知犬が楽しめるように訓練を行っているということで麻薬探知犬での調査に対するイメージが大きく変わりました。

3日目は長崎税関で通関業務と調査業務の説明を聞き、移動式 X 線検査と旅具検査の模擬体験を行いました。X 線検査では画面上に映し出された色と形だけで違法な所持品を持っていないかの判断をしている税関職員の方のスキルの高さを実感しましたし、旅具検査の模擬体験では違法な所持品を見つけ出すことの大変さや麻薬を持ち込む犯人の手口を知ることができました。また、税関職員の方がいるからこそ、国の安全が守られているのだと改めて感じました。

4日目は長崎財務事務所では経済調査の業務説明を聞いた後に、経済調査業務の一環である法人企業景気予測調査をメディアに公表する場に実際に立ち会うことができました。企業からヒアリングした結果をもとに経済の動向を分析し、それをメディアに公表することで、その内容が国や国民に共有されているのだと知ることができました。また、後日調査結果が新聞記事に掲載されており、業務のスケールの大きさを実感しました。

5日目は長崎財務事務所では融資業務の業務説明を聞き、貸付監査業務の体験を行いました。一定の条件を満たさないと地方公共団体は融資を受けられないということで、その条件を満たしているかどうかの確認作業の体験を行ったのですが、実際やってみると難しく、財務専門官は専門性が高い業務を行っているということを実感しました。また、国有財産の業務説明を聞いて、実際に国有地の見学にも行きました。財務専門官は国有地の管理も行っているということで、国有地の活用方法によっては地域が抱える問題を解決することができ、地域貢献をすることができる魅力ある業務だと感じました。

今回のインターンシップでは働いている職員の方のコミュニケーション能力の高さを感じましたし、自分もさらにコミュニケーション能力を高める必要を感じました。また、インターンシップに参加したことで財務専門官になりたいという気持ちが以前より強くなり、公務員試験の勉強を頑張りたいと思いました。

【アイランド長崎】

私は今回アイランド長崎のインターンシップに参加しました。その中で、当初の目的であった丁寧なコミュニケーションを学ぶことができました。1日目に、指導員の方から、アイランド長崎の心がけているコミュニケーションの仕方を教わりました。そこから、自分たちは、社員の一人となったつもりで、適切な挨拶やコミュニケーションをするように心がけました。

二日目から、本格的な仕事が始まりました。私の一日目の業務は主にアークランドスパでの洗濯でした。ピーク時ということもあり、大量の洗濯物を洗い、干しの繰り返しで、このような業務を毎日行っている社員の方をととても尊敬しました。この活動の中で私が学んだことはいかに作業を効率的にやるのが大事かということです。狭い室内で人を適切に配置し、最も効率のよい形で仕事を行う大切さを学びました。

三日目は、ホテルの清掃の業務を行いました。私たちが当たり前にホテルにつくときれいにセッティングされている室内は、従業員の方の努力の賜物であることを身をもって理解しました。シーツの引き方一つ一つにもルールがあり、いかに効率よく、丁寧に室内の清掃やセッティングが行われているかを学びました。

私は今回のインターンシップを通じて、ホテルという普段は客として利用しているサービスがいかに人の手によって丁寧に作られているかを学びました。特にアイランド長崎は高級ホテルということもあり、挨拶の角度や言葉使い一つ一つにマニュアルがあり、従業員の方々一人一人に徹底されていました。このような事実を知れたことで、日頃から感謝を忘れずサービスを使えるようになり、また丁寧なコミュニケーションを今後自分の人生で活かしていきたいと思いました。

【株式会社イシマル】

私は、8月19日から8月23日の5日間の5日間、株式会社イシマル様のインターンシップに参加させていただきました。インターンシップに参加した理由は、私は元々営業職に興味があったため、「営業同行体験」を通して、実際に自分に合っている職種なのか知りたいと思ったからです。またB to Bの企業が営業している光景を日常生活の中ではあまり見る事ができないため、実際の職場の雰囲気と業務内容を知りたいと思い参加しました。

1日目は会社の概要とオフィスツアーがありました。石丸文行堂から分社化した会社であり、長崎では歴史のある会社の一つであることを知りました。また事務用品だけでなく、オフィスのトータルコーディネイトやシステム開発など幅広い事業を展開している会社だということを知れました。

2日目はビジネスマナー研修を受けました。営業職は会社の代表者であり、かつ顧客の代弁者という社員の方の言葉が特に印象に残りました。名刺交換とあいさつの練習に多くの時間をかけて、3、4日目にある営業同行に向けて準備をしていきました。

3、4日目はこのインターンシップで特に私の興味があった営業同行でした。3日目はカスタム営業課の方に同行し、身近で商談の内容を聞くことができました。また、2日目に練習した名刺交換を実際にお取引先の方と実際にできたことは貴重な体験になりました。4日目はソリューション営業課というソフトウェアやICTを扱う部署の営業マンの方に同行させていただきました。カスタム営業と営業の仕方に違いがあり、お客様の相談事を解決するための商品の提案がメインでした。営業職は話し上手や傾聴力がある人が向いていると思っていました。しかし、それぞれの性格に合った営業方法があり、自分に合った方法を見つけていこうというように感じました。

5日目は営業同行の報告会と座談会がありました。インターンシップ生の体験を聞いて、それぞれの感じ方があって営業職について多くのことを吸収することができた。社員の方が営業職の向き不向きより好きになることが重要であるというお話が印象に残っています。

今回のインターンシップを通じて、営業職についてより一層興味を持つことができました。私の性格から営業職が向いているのではないかと感じる事ができました。しかし自分に足りないことも多く、特にグループワークの際に進行役が上手くできなかったことはこれからの課題になった。今回のインターンシップを通じて、営業職を中心に様々な業界をみていきたいと思います。

【株式会社チョープロ】

私は株式会社チョープロのインターンシップに、9月2日から9月6日の5日間参加しました。インターンシップの研修先にチョープロを選んだ経緯としては、長崎県内での就職を考えていること、人々の生活の基盤であるガスや電気を扱うインフラ業界が漠然とどのような仕事をしているのか興味があったこと、チョープロでは地域創成事業にも取り組んでいることを県のインターンシップの募集要項で知り詳しく知りたいと思ったからです。

実際に五日間のインターンシップを終えて、生活の基盤を支える企業のやりがい・魅力・苦労などを知ることだけとどまらず、社員間でのコミュニケーションには何が必要なのか、会社の経営とは何かなど働くことについて深く考えるができ、今後の就活や人生において役に立つ経験をさせていただきました。

今回、私が参加したチョープロの5日間のインターンシップの内容としては会社内にある12部署を訪問してそれぞれの事業内容を説明していただき、部署内・部署間でのコミュニケーションで何か困っていることはないかインタビューさせていただき、その内容を最終日にまとめて発表するという現場訪問と課題解決を合わせたようなものでした。

インターンシップ初日は座学中心で行い、全体朝礼に参加した後、オリエンテーションを行い、リテール営業部の事業説明、開発営業部の事業説明、長崎地域電力事業説明を受けました。都市ガスとプロパンガスの違いやリテール営業部と開発営業部の違い、長崎地域電力事業部の太陽光発電に対しての取り組みについて学びました。インターンシップ2日目は開発営業部に同行ヒアリング、発電事業部の事業説明、柿泊太陽光施設見学を行い、3日目は発表資料を作成した後、経理部行内容説明・ヒアリング、建築事業部事業説明、戸石・モデルルーム見学をさせていただきました。4日目は本店の長与ではなく、佐世保支店で同行。ヒアリングを行いLPガスの充填施設や現在建設中のLPガスの充填施設を見学させていただいた。5日目はライフスタイルショップやレストラン・住宅販売・リノベーションを行っているKuriyaの事業説明・ヒアリング、発表の最終準備を行い、発表を行った。

今回のインターンシップでの最終発表のテーマは「部署間でのコミュニケーションをより円滑に行うには」というものでした。企業側もこのようにテーマを与えて最終発表を行う、課題探求型の形式は今回が初で、テーマの難易度が高かったのもあり少ない時間の中で、最終発表のギリギリまで準備を行いなんとか発表を行うことができました。この発表の準備を行うために自ら各部門の方々に部署内・部署間でのコミュニケーションで困っていることはないか、またそれに付随して様々な問題や不満を聞かせていただくことができ非常に勉強になりました。

今回のインターンシップの経験を活かして積極的に自分の興味のある分野について学び、自分にとって最善の就職先を探していきたいと思います。

【株式会社十八親和銀行】

私は8月26日～8月30日の5日間株式会社十八親和銀行の夏季インターンシップに参加させていただきました。私は長崎県の課題に対して長崎経済に担う十八親和銀行がどのような取り組みをしているか、融資業務等に対してどのような視点から将来性を見出しているのか、金融資産、銀行業界について学びたいと思い参加しました。

1日目では部長講話、銀行業界について、内々定者の方々とのパネルディスカッション、懇親会がありました。銀行業界についてより理解を深めることができ、内々定者や人事部の方々との交流により、自分が入行した際のイメージや十八親和銀行についてよく知ることができました。2日目ではキャッシュレス、資産相談、FC業務、長崎県経済について説明と発表がありました。長崎県の課題としてキャッシュレスがあることを知り、長崎経済についていろんな技術や産業を組み合わせ解決策を提案しました。今後のゼミ活動や就職活動においても大変参考になる機会だったと思います。3日目では職場見学、融資業務、投信のパレットについてのグループワーク、座談会がありました。融資業務ではお客様を知るための感性を磨く必要があり、金融資産について学ぶことができ、長期的に利益を得られるように運用していくべきだと思いました。4日目では地方創生、デジタル化支援、人事部座談会、ダイバーシティ、人材開発センターの説明、グループワークがありました。アンコンシャスバイアスという偏見の説明があり、銀行員として多様性を尊重することも重要だと思いました。5日目では就活セミナー、店頭業務座学について説明、グループワークがありました。銀行員として小さなことでも信頼を失わないためにも責任をもって仕事をする必要があると思いました。

この度のインターンシップで、自分自身の銀行業界、十八親和銀行、長崎経済の理解が進み、自分なりに回答できるようになりました。これからはこの学びをゼミでの発表、日々の授業、就職活動で活かしていきたいと思います。

【十八親和銀行】

私は、8月26日から8月30日の5日間で十八親和銀行のインターンシップに参加しました。このインターンシップに参加した理由・目的、どのような研修をし何を学んだのか、そして学んだことをどう活かしていきたいのか以下述べていきます。

まずインターンシップに参加するうえで、理由・目的とそれを達成するためにどのように行動するかをあらかじめ考えていました。理由・目的は社会人とはどのような感じなのか、また自分が社会に出るために何が足りていないのかを明確にすることと自分がどのような仕事に向いていてどのような業界・職種に就きたいのかを知ることでした。そしてそれを達成するために、できるだけ多くの社員の方の話を聞き、銀行とはどういった仕事なのか、どういった力が必要なのかを知り、ほかにも自分の知らないことが山ほどあると思うので、たくさん吸収すること、を挙げていました。そしてインターンシップ終了後は現在の自分に足りないものは何か、その足りないものを今後どのように身に付けていくかまで明確に話せるようになりたいと考えていました。

1日目の研修では懇親会を含む内々定者の方との交流イベントがあり、就活生が知りたいことをたくさん教えてくださり、今後の就職活動に活かせる情報を得ることができました。2日目の研修ではFC 業務・資産相談の講義によりどのような業務なのか顧客に対しどのようにヒアリングするのかを理解することができ、午後のグループワークでは自分の考えを周りに共有し、それをほかの班の方にうまく発表するために協力することができました。3日目の研修では実際に職場見学をさせていただき普段利用者としてしか見られていなかった部分をさらに銀行員という視点から行員の方々がどのように顧客の方の対応をされているのか見学することができました。4日目、5日目の研修は台風の影響でオンラインでの研修となりましたが、4日目の人事部の方との座談会では就活において大切なことや持っておいて損はない資格など気になっていることをたくさん聞くことができ、5日目の就活セミナーでは、志望動機、自己PRなどエントリーシートで大切な点まで多くのことを教えてくださり、さらに自分で書いたことを人に聞いてもらう場を設けてくださったため非常に有意義な時間となりました。また5日目には店頭業務座学もあり、1日目の説明に加え、細かい役割やその仕事内容などを知ることができました。

以上の5日間で私は銀行業務のイメージが変わり、就活で大切なことを教えていただき、そして自分に足りないものを見つけることができました。私が社会人になるために足りないものは「責任感と積極性」でした。一对一、企業相手での業務における責任の重さや、相手（顧客、取引先など）のことをすべて知るための積極性など、銀行員だけでなく社会人になるために必要なものがまだまだ不足しているため、今後のインターンシップなどの就職活動、日常生活を通して成長していきたいと思います。

【十八親和銀行】

私は、十八親和銀行のインターンシップに5日間参加しました。私はもともと銀行業界に興味・関心があったという理由と就職活動を本格的に始めるという意気込みでこのインターンシップに参加しました。

私は、はじめて対面型の5日間のインターンシップに参加してみてオンラインとは違った点や実際に働く社員の方々の姿を直接見ることができて感じる点がいくつもありました。そのなかの3点をお話したいと思います。

まず一つ目は、金融業界が明確化できたことです。金融業界とは何か、インターンシップに参加する前はただ漠然と、銀行窓口の業務を想像していたが、実際には全く違い、お客様の大事にしている資産を預かり運用することや、地方銀行ならではの地域経済とのつながりを大切にしていることなど、私が参加する前とはまったくちがった先入観を取り払うことが出来ました。特に地方創生について印象に残っており、長崎が抱える人口流出や産業の発展・衰退など私たちが何気なく生活しているこの長崎にもまだまだ課題があることを痛感しました。

2つ目は、十八親和銀行で働く社員の方を深く知ることが出来たことです。投資信託について興味があり、実際に学ぶ機会を与えてくださったときに、実際にその環境で働く社員の方に質疑応答する時間がありました。その際、人事部以外の方にお話を伺ったのですが、質問に答えてくださる方全員が楽しそうにお話をされるので楽しく仕事ができているのだと感じました。これに加えて、十八親和銀行では人材ではなく、人財と表記する風土があり、それが体現できていると強く感じました。

3つ目は、大学生活の知識が金融業界でとても活用できるという点です。私は専門ゼミで会計について学んでいるのですが、これまでゼミの授業をただこなすように生活してきたのですが、インターンシップの融資業務の講義の中で「この方に融資するか否か」という議題でグループワークを行ったときに、なんとなく覚えていた流動資産の話がありそれを活用してグループワークを行えたことでより多くの知識を吸収することが出来ました。そのため大学生活の知識が実際に役に立ち、これからもその知識を活かすことができると考えるようになり、これからのゼミでさらに専門性を高めていきたいと思うようになりました。

この5日間のインターンシップに参加してみて、台風の影響で店頭業務を行うことは出来なかったことがとても残念であるが、社内の雰囲気や働く社員の方々・地方創生・金融業界の明確化を学べたことに加えて、普段のオンライン型インターンシップとは違った、ほかの大学の就活生や志望業界など会話を深めて自分のキャリアについて考えたことがこのインターンシップで得た非常に大きな収穫だと感じました。これからはこのインターンシップの経験を活かし、自分のキャリアを明確化し、それを達成するために行動していきたいと思います。

【十八親和銀行】

私は十八親和銀行のインターンに参加し、銀行業務や地域での役割、銀行員の働き方や福利厚生について知ることができた。銀行業務について、銀行の業務には、預金の預け入れ、貸し付け、為替取引、十八親和銀行では地域でのデジタル化サービスなどを行っていた。個人や企業から預かり、貸し出すことで利息を得、その利子と利息の差による利鞘で成り立っていることを知ることができた。預金業務では、普通預金や定期預金を通じて資金を集め、貸出業務では住宅ローンや事業融資を提供し、資金の循環や地域活性化を促進する。

また、同じように十八親和銀行にインターンに参加する学生と話すことができた。銀行員を目指している学生、選択肢として持つ学生などと話すことができた。それらの学生とコミュニケーションをとることによって、就職やインターンに対する考え方、なぜ銀行員になりたいのかなど聞くことができた。

私はこのインターンを通して、全てではないが銀行業務について知ることができ、また他のインターン生と話すことによって自分の就職に対する軸について考えることができた。また、企業説明会と違って実際に働いている現場や働いている行員を見ることができ、充実した 5 日間を過ごすことができた。

【株式会社長崎銀行】

私は、8月5日（月）から8月9日（金）に株式会社長崎銀行のインターンに参加した。

初日は自己紹介や長崎銀行や西日本フィナンシャルホールディングスの概要について、また社会人と学生の違いや銀行員としての心構え等について学んだ。各日程の最後には銀行員の技術として札勘定や電卓などを行う予定となっている。一日目で印象的だったのは、長崎銀行やグループの概要についてで、持株会社である西日本 FH グループの子会社としての長崎銀行の役割であったり、ライバル会社である FFG グループとの関係性や現代の銀行の合併やグループ化のメリット、デメリットなどを行員目線で聞くことができたりと日本や九州の金融、銀行業界についてより深く知ることができた点だ。これまでの企業説明会やオープンカンパニーよりも内側から知ることができたと感じた。

二日目はビジネスマナーや金融機関が行っていること、どうやって利益を得ているのかの講義があった。ビジネスマナーに関しては、普段から意識していたため問題がなかったものもあったが、敬語を使い慣れていなくわからない敬語があったので、社会人になるうえで習得しないといけないと感じた。銀行の業務や利益の得方に関しては、大学の講義で学んでいることもあったが、ローンや投資信託などの話は、今まで敬遠していた部分があったが今回しっかりと理解することができた。

三日目は主に利益を上げるための融資業務について、客目線でよく見る窓口業務について学んだ。融資を行うための約束事や、審査が消費者金融よりも厳しい分金利が低いといったメリットもあるということを学んだ。インターンシップに参加しているメンバーと融資業務のロールプレイングを行うことで意見交換を交えることができたことがよかった。窓口業務は、自分は過去に口座開設で窓口を利用するくらいだったので、どのようなことを行っているのかが分からなかったが、ロールプレイングを行うことで実際にどのようなことを行っているかがわかった。印象的だったことは、窓口で一通り要望の業務が終わった後に、銀行が扱っている商品（保険や投資信託等）の提案を行っているのだということである。

四日目は銀行員の自己啓発についてや先輩行員との座談会、人事目線での就活に向けてのアドバイスなどがあった。銀行員になってから実際に提案ができるようになるために資格を取ったり、講座を受けたりしてく必要があることを知り、それが昇進、昇給にもつながっていると知った。これがあることで働くためのモチベーションを保っているのではないかと感じた。就活に向けてのアドバイスでは、人事目線のどういう学生が目を引くかを知ることができ、ES や面接で活かせることを多く聞くことができた。

五日目はコンプライアンス講座や本店営業支店長の講和があった。コンプライアンス講座では、行員ならではの守るべきことがあり、職種によっては得る情報で悪用ができるのだろうなと感じた。支店長講和では支店で働く行員ならではの考え方やお話を聞くことができた。

初めての 5 days かつ対面でのインターンシップだったが、参加してよかったと感じる。この経験があったからこそ希望通りの就活ができたと思えるように今後も生かしていきたいと思う。

【厚生労働省 長崎労働局】

私は、9月2日（月）から9月6日（金）の5日間、厚生労働省長崎労働局のインターンシップに参加させていただきました。私がこのインターンシップに参加した理由は、公務員を目指しており、実際労働局ではどのような仕事を行っているのか知りたいと思ったからです。インターンシップに参加し実際に経験することで、職場の雰囲気や仕事のイメージを体感したいと考えていました。

労働局では総務課、労働保険徴収室、雇用環境・均等室の3部署で様々な業務を体験させていただきました。総務課は庶務、人事、会計の3部署に分かれているため、2日間に渡って3部署を回りました。庶務業務では様々なシステムを活用しながらも、簡素化された業務を規則に則り正確に迅速に作業を行うことが重要であることが分かりました。人事係では、初任時の給与について実際に計算しました。労働局で実際に働いた時の給与のイメージがつきやすく、今後の参考になりました。会計はさらに契約・国有財産・支払に分かれており、それぞれの業務について学びました。また物品の保管倉庫を案内してもらい、非常時の備えや各課の重要な資料を見るという減多に出来ない経験ができました。

労働保険徴収室では、年度更新や特別加入、保険料の徴収業務について学びました。説明を受けた後に年度更新や成立届の手続きを行ったため円滑に進めることができました。ですがそれでも難しい部分があったため、労働局の方々のサポートやリーフレットのおかげで円滑に手続きが行われていると感じました。これまで労働者側の視点に立つことが多かったのですが、徴収室で様々な業務を経験する中で事業主の視点に立って考える機会になりました。労働保険の滞納処理では、事業所の実態の一部を垣間見ることができ、就職活動について考え方が少し変わりました。

雇用環境均等室では実際に使われている法律や企業指導、助成金制度、個別労働紛争解決システムについて学びました。雇用環境均等室では実際の悩みを目の当たりにすることが多かったです。実際に報告徴収を傍聴しましたが、労働者が実際にどのような環境で働いているかについて多方面から質問することで、会社の実情を把握し改善を促すことができているのだと感じました。また、総合相談サービスでは労使それぞれ様々な認識を持っているため、中立の立場から話を聞くことを意識していることを知りました。それだけでなく、相談者の今後の働く環境についても配慮されていて、その人の環境を想像することの大切さも実感しました。

また、新たに施行される予定の法令について雇用環境均等室長へのインタビューの見学という経験もさせていただきました。普段拝見することができないインタビューの裏側を見させていただき、労働局だけでなく放送局の方の仕事の一部を知る貴重な経験になりました。

このインターンシップを通して、労働局の業務内容や職場の雰囲気を知ることができました。労働局の方々が気さくに話しかけてくださったおかげで肩の力が抜け、多くの事を吸収することができたと思います。この5日間で学んだことを就職活動やこれからの人生に活かしていきたいです。

【大村市役所】

私は、大村市役所で8月23日から8月24日と、9月6日から9月8日の5日間インターシップに参加しました。現在公務員学校に通っており、地方公務員への就職を希望している中で、インターシップでは、実際に市役所の仕事を体験し、自身が持つ地方公務員のイメージが正しいものなのかを確かめることを目的にしました。

結論から言うと、インターシップによって地方公務員のイメージが大きく変わりました。私が配属されたのは、「社会教育課」という部署で、社会教育団体などの育成指導・少年の補導及び相談・大村市内公立校民間の運営管理などを行う所です。社会教育を通して地域の人々のつながりを維持したり、新たにつながりをつくったりすることを目的としています。そのため、地域で様々なイベントの運営をしており、毎日何らかのイベントの準備をしているそうです。インターシップに参加した5日間も「こども科学館まつり」と「コミセンまつり」という地域イベントの会場設営と当日の運営を行いました。その間、職員の方も含め、パソコン作業はほとんどなく、体を動かす仕事ばかりでした。これにより、デスクワーク中心だと思っていた地方公務員のイメージが大きく変わりました。

1日目と2日目は、「こども科学館まつり」の会場設営と当日の運営を手伝わせていただきました。市役所とこども科学館の職員の方が主催し、高校生や民間企業・団体が出展者となり、科学を使った実験や、折り紙や竹とんぼなど昔の遊びを体験できるイベントです。私たちは、会場設営の手伝い、準備風景や当日の様子撮影、出展者の補助などを行いました。職員の方が、来場した地域の方々によく話しかけており、私たちも出展者の補助を通して子供たちと交流する機会が多かったため、地域とのつながりが強い部署だと実感しました。

3日目から5日目は、「コミセンまつり」という大村市内の公民館を利用する団体の方々が展示や舞台発表をするイベントの会場設営、広告資料用の写真撮影、舞台準備の補助などをしました。このイベントは、市役所の職員と団体の方々が共に作り上げていくイベントであり、団体同士の交流をはかれるだけでなく、舞台などを見て他のイベントへの参加や老人ホームへの訪問など新たな地域間のつながりを生むきっかけにもなっています。

今回のインターシップでは、社会教育課だけでなく、大村市役所本庁の見学もさせていただき、契約課・会計課・秘書課など初めて目にする部署が多くあり、同じ一般公務員の試験を受けた人でも、部署が違えば仕事内容が大きく変わることを知りました。この学びを生かし、自分がどのような公務員を目指したいのかをもう一度考えてみようと思います。

【大村市役所】

私は、8月23日から8月24日、9月6日から9月8日の5日間、大村市役所の社会教育課のインターンシップに参加しました。私はこのインターンシップで、実際に実務を経験して市役所の仕事についての理解を深めること、また、研修中に今の自分に足りないスキルは何なのかを知ることが目標になりました。

研修内容は、8月23日から8月24日の2日間は子ども科学館のまつりの準備、運営を行い、9月6日から9月8日の3日間はコミュニティセンターでのまつり、コミセンまつりの準備、運営を行うという内容でした。

まず、子ども科学館まつりの準備を行った際は、会場設営や出展者の方に渡す資料の整理、受付のパネルの飾りつけを行いました。作業をしている際に博物館に子どもたちが数名ほど遊びに来ていたのですが、その子どもたちと博物館内で働いている人たちの仲が良いのが印象的でした。まつり当日の運営を行った際は、各ブースの様子を撮って回ったり、人手が足りないブースの手伝いを行ったりしました。ブースの手伝いでは、笛ストローというおもちゃを来場者の方と一緒に作るという手伝いをしました。ストローの切り方や笛の鳴らし方にもコツが必要で、来場者の方にそれらのコツを教えるのは非常に難しかったです。

次に、コミセンまつりの準備を行った際は、会場設営を行ったり、本庁に書類を届け、他の課の見学を行ったりしました。他の課を見てみると、イベントの企画や運営を行う社会教育課とは異なり、デスクワーク中心といった雰囲気がありました。まつり当日は、ステージ上の出演者の方々の写真を撮ったり、舞台準備の補助を行ったりしました。写真を撮る際と舞台準備補助を行う際に、見えるものが違い、写真を撮る際は、来場者の方や出演者の方の表情が良く見え、舞台準備補助を行う際は、出演者の方々の緊張や高揚が伝わってきました。舞台準備補助を行っていた際に、社会教育課の方の1人が出演者の方に必ず声をかけていたことが印象的で、自分もなるべく声をかけて出演者の方の緊張をほぐそうと行動しました。

今回のインターンシップでは、これまでの自分が持っていた市役所のイメージが大きく変わりました。また、研修を行っている際に、小学校や中学校で行っていた行動を思い起させる仕組みがいくつかあり、小中学校での生活は社会に出ても役に立つのだなと感じました。そして、社会教育課は他の課よりも市民の方々の近くにいることができる課なのだということがわかりました。この5日間で得たことを、これからの生活で活かしていけるよう精進していきたいです。

【長崎県 広報課・ながさき PR 戦略課】

私は8月19日（月）から8月23日（金）までの5日間、長崎県庁の広報課・ながさき PR 戦略課のインターンシップに参加しました。私がインターンシップに参加した理由は、県職員を志望していたためです。特に、情報を発信する業務に興味があり、広報課を希望しました。県職員の方々がどのような働き方をしているのか、どのような業務を行っているのかを知ることが目標に取り組みました。

まず1日目は2つの課の業務説明と、知事の撮影を行いました。広報課は、知事や議会に関する放送、SNS によるイベント情報・災害情報発信、そしてメディア発信と広報誌の作成を行っています。ながさき PR 戦略課は、ブランディングを中心とした新しい県づくりを目標とし、先10年の中心となる世代が参加してくれるワクワクさを求めています。この業務説明から、発信の媒体が様々でありながらも、閲覧者数や利用者数が伸び悩むという広報の課題を知ることができました。

2日目は広報課のルーティーンである新聞切り抜き補助と若手職員との意見交換会、知事の定例記者会見会場設営補助、記者会見見学を行いました。部署異動に関して、大変ではあるけれど、得られるものがたくさんあると常に学ぶ姿勢でいる職員の方々の意見を聞くことができました。記者会見は、県民に届く情報は会見に来ていたメディアのフィルターがかかった情報になるため、まずはメディアに理解してもらうための入念な準備が必要であると感じました。

3日目は、全体のオリエンテーションでした。長崎県庁は九州の中でも、デジタル化が進んでおり、フレックス制やテレワークの設備が整っていました。また、長崎の今後を考えるグループワークでは、県内出身の学生が考える現状を聞き、県外出身の情報量の少なさを痛感しました。実際に出身地のことも3年間住んでいる県についても知識が足りないと反省し、今後の課題としました。

4日目は記者室の業務説明と広報テレビ番組の撮影見学を行いました。記者室は広報課の中でも雰囲気が変わり、知事の記者会見に必要な内容、事前に集めた質問に対する回答など会見に至るまでの過程を知ることができました。

そして最終日は、課題の発表を行いました。SNS に関する課題を計3人で取り組みました。新しい目標と行政の情報を発信するという役割が同時に達成されるのは難しいと感じながらも、制約された条件下の中考えることができました。

全体を通して、課題発表などでリーダー的役割を担うことができたと考えます。しかし、まだ至らない点が多くあると実感した5日間でもあり、吸収した情報や、反省した点を今後の受験勉強に活かしていきたいと考えました。

【長崎県対馬振興局地域づくり推進課】

私は、9月2日(月)から9月6日(金)までの5日間、長崎県対馬振興局地域づくり推進課のインターンシップに参加しました。私は公務員志望で、特に長崎の地方創生、地域活性につながるようなお仕事をしてみたいと考えており、観光資源が豊富で韓国人観光客のインバウンドでも話題の対馬では実際にどのような取り組みが行われているのか見学したいと思い応募させていただきました。

1日目はインターンシップの概要と対馬のことについて説明していただき、2日目からは実際に現場回りをさせていただきました。対馬に来るまではツシマヤマネコや黄金あなごなどどちらかと言えば自然の観光資源が豊富なイメージを持っていましたが、実際に見てみると元寇や朝鮮通信使などの歴史の舞台であったことから歴史的な建造物や神社が多いということが分かりました。観光のプラスの面だけでなく、韓国人観光客の増加によるオーバーツーリズムや漂流ごみのような対馬が抱えるマイナスの面についても学びました。最初は「なぜこれだけ豊富な観光資源に恵まれているのにもっと対外的なアピールしないのだろうか？」と疑問に思っていたのですが、観光は地元住民にとって必ずしも望ましいものではなく、地元住民の気持ちや地域の特性に向き合い、寄り添う必要があるのだと気づくことができました。移動中も普段のお仕事や県庁でのお仕事について質問し、より理解を深めることができました。

また、SNSでの情報発信やイベントの企画考案、名刺の新しいデザイン案など自分がやりたいと思っていたお仕事も体験させていただきました。SNSでの情報発信は思いの外文章を考えるのが難しく、地域の魅力を上手く外部に伝えることの難しさを学びました。イベントの企画はインターンの最初の方で概要が説明され、最終日までずっと考えていたのですが、なかなかいい案が思いつかず、中には下調べ足りずに五島で実施されていたものと被っているものもあり、企画をする際広い視野を以て取り組むことの重要性が分かりました。最終日には発表をさせていただいたのですが、いい部分についてはきちんと評価していただき、よりよくなるようなアドバイスもいただくことができました。

職場の雰囲気について、自分の中で公務員と言えば淡々としているイメージがあったのですが、対馬振興局の方々は皆様とても親切で、職場の雰囲気も非常にアットホームなものでした。このような空間だったので過度に緊張することなく、リラックスして研修に臨むことができたように感じます。もちろん、全ての職場がこうであるとは思いませんが、少なくとも私はこのような職場で働きたいと思いました。

今回のインターンシップでは多くの方々にサポートしていただき、離島の抱える問題や地域づくりの在り方などを学ぶことができました。この経験が無駄にしないよう精進してまいります。

【長崎県 企画部】

私は、今回のインターンシップ研修を長崎県庁の企画部で8月21日から8月27日までの5日間させていただきました。まず私がインターンシップ研修で長崎県庁を選んだ理由は、以前から県庁で働きたいと考えており、その中でも長崎で過ごすうちに、長崎で働きたいという気持ちが強くなっていったからです。実際に長崎県庁のインターンシップを体験することで、どのような働き方をしているのかなどがより詳細にわかるのではないかと考え今回のインターンシップに参加しました。

今回参加した企画部は政策調整課、政策企画課、デジタル戦略課、IR室の4つに分けられています。全体の日程としては、1日目に全体オリエンテーションがあり、2日目から4日目までそれぞれの課から取り組みなどの説明をしていただき、5日目に発表といった内容でした。

まず1日目のオリエンテーションについて、長崎県・長崎県庁の姿についての講義を聞き、県庁舎の見学も行いました。またこれからの長崎のありかたについてインターンシップ参加者と意見交換も行ったり、他にも実際にいま長崎県庁で働いている若手職員の方と自由に話したりすることもできました。このことを通じて、長崎県での働き方、おもにワークライフバランスについて深く知ることができました。

2日目は政策調整課の方が主導となって説明をしていただきました。また政策調整課が取り組んでいる企業版ふるさと納税のリーフレットを実際に班のみんなで作成し、発表をおこないました。実際に作成してみて、長崎県の取り組みを県外の企業に知ってもらい、支援してもらえそうなリーフレットにするにはどうすべきなのかについて深く考えることができました。

3日目は政策企画課の方に説明をしていただきました。そこではSDGsや人口減少対策にかかる意見交換を行いました。また長崎の魅力を知ってもらうにはどうすればいいのか、SNSをどのように活用していくのかについても意見交換を行いました。

4日目は、デジタル戦略課の方に説明をしていただきました。デジタル戦略課では、データ連携基盤やメタバースを活用した取り組みをおこなっており、活用の仕方を話し合いました。

5日目は2日目から4日目まで学んだ内容からテーマを選び、それについての意見や提案を企画部の方の前で発表をおこないました。

この5日間のインターンシップを通して、長崎県の取り組みを具体的に知ることはもちろん、どのようにして意見を出し合っているのかなども学ぶことができました。今回学んだことを生かし、今後の生活に活かしていきたいと考えています。

【長崎県 企画部】

私は長崎県の企画部にて五日間のインターンシップをさせていただいた。今回長崎県を志望させていただいた理由は、以前から長崎県庁に就職したい思いが強く、実際にどのような業務が行われているのか、どのような雰囲気なのか知りたかったからである。全体的に「課」の単位で受け入れを行う部署がほとんどである中、企画部は部として募集されていた。議会に関わること、政策の方針に関わること、デジタルやドローンに関わることなど、所属する課の業務内容が多岐にわたっていることに魅力を感じ、県庁の中でも企画部に応募した。

初日は同じ日程の他の参加者も含めた合同オリエンテーション。県庁を巡り長崎県についての理解を深めたり、公務員試験や長崎県庁について学んだりした。グループに分かれ、長崎の未来について意見交換もした。

二日目から四日目にかけての三日間、企画部にて活動をした。政策調整課、政策企画課、デジタル戦略課の担当の方が一日ごとにそれぞれの課の業務内容などについて説明をしてくださり、一つのテーマを取り上げ、職員の方との意見交換や大学生目線での新たな提案をするワークを行った。

最終日はこれまで取り組んだワークをまとめ、企画部の職員の皆さんに向けプレゼンをした。私が担当したのは政策調整課にてPRを行っている「企業版ふるさと納税」に関するワークで、より多くの企業を誘致できるような新たなパンフレットの提案について発表した。既存のパンフレットがあり、それをもとに作成したものを特徴やコンセプトとともに説明させていただいた。元々デザインをすることが得意であったため、この機会に活かすことができたのは自分の自信につながった。

この五日間の研修を通して得られたものや達成感が非常に大きく、職員の方が学生の私たちのために忙しい中時間を割いて講義やワークをしてくださっただけでなく、親身になって進路の相談にも乗ってくださるなど温かく迎えてくださり、自分の目指す将来像がより明確になった。これからはお世話になった職員の方と机を並べることができるよう、試験勉強に励みたい。

【長崎県庁 危機管理部】

私は、8月21日（水）～8月27日（火）の土日を除いた5日間、長崎県庁危機管理部のインターンシップに参加させていただきました。私がインターンシップに参加した理由は、現在の第1志望である県庁の雰囲気や実際の労働環境を体験したかったためです。

1日目は、オリエンテーションとして県庁の見学や講義、参加者同士の意見交換会に参加しました。意見交換会では、県庁の若手職員の方々に、実際に働いている環境や、県の取り組み、公務員試験の勉強など、様々なことについて聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、同じ立場の参加者の方と志望理由などについて聞くことができ、とても良い時間になりました。2日目からは危機管理部を訪問させていただきました。2日目は国民保護についての座学や兄弟への訪問をさせていただきました。国民保護の分野では、「想定外を作らない」というモットーの下、日ごろから有事の際に柔軟な対応ができるようにしているという話を聞き、国民保護という仕事の重要性を体感することができました。3日目は、消防、保安についての座学、防災航空センターでの体験学習を行いました。防災航空センターではヘリからの効果救助訓練に要救助者役として参加させていただき、その安定性や隊員の方々の信念を感じました。4日目は、基地や原子力防災の座学、警察本部や防災行政無線施設の見学を行いました。警察本部ではリアルタイムで110番通報に対応する様子を見させていただくことができたり、電光掲示板や渋滞をモニタリングする様子を見学させていただいたり、貴重な経験をさせていただきました。5日目は、県庁への研修課題発表として、新しい施策の提案を行いました。私は、県庁危機管理部の公式Xアカウントのフォロワー数増加のための施策として「1日1ポスト施策」というものを提案しました。発表後には、県庁職員の方から意見や感想をいただき、とても勉強になりました。

今回の5日間のインターンシップを通して、公務員、特に県庁職員として働くということのイメージが深まりました。また、県庁で働く職員の皆さんの姿を実際に見ることができ、公務員試験に対するモチベーションを高めることができました。さらに、職員や同じインターンシップ制との対談などで、様々な情報を知ることができたことも勉強になりました。今後の学生生活や主食活動でこの経験を生かしていくことができたらと思います。

【長崎県庁教育庁教育政策課】

私は、9月4日(水)から9月10日(火)までの土、日曜日を除く5日間で、長崎県庁教育庁教育政策課のインターンシップに参加をしました。私がこのインターンシップに応募した理由の一番は、公務員として県庁内で働く方の姿を見てみたいということでした。

インターンシップの初日は、人事課の方が主導で、長崎県庁で働く方との座談会や福利厚生、長崎県が目指すこれからの姿に関する講和等を行いました。また、活動に関しては、同じ日程で参加をしている他の課のインターン生とのグループワークが中心で行われました。

二日目からは、教育政策課のインターン生10人と担当者の方との活動が始まりました。二日目、三日目は、教育事務について知るということをテーマに、二日目に諫早中学校、諫早農業高校に、三日目に大村市の未来 on 図書館、県立ろう学校を訪ね、見学や実際に教育事務として働かされている方々との座談会を行いました。この座談会に関しては、それぞれの会場でお時間を設けていただき、たくさんの方とお話をさせていただきました。まわっていく中で、教育事務のお仕事に関するおはなしはもちろん、施設や学校の種類によって事務の仕事内容がすこし異なること、やりがいや福利厚生といったように様々なことを知ることができました。また、座談会を行う中で、お話をさせていただいた方々はそれぞれの今までの配属先や年数も異なっているため、一人ひとり異なる意見を聞くことができました。その異なるお話の中でも、学校で勤務をして子供たちのためになっていることを感じられるときがやりがいであるとおっしゃられる方が多くとても印象に残っています。また、諫早中学校では、給食をいただき、とても懐かしい気持ちにもなりました。

4日目は、県庁の教育庁内で活動を行いました。午前中は、主に長崎県の教育庁がどういった取り組みを行っているのかについての講和をさせていただき、午後からは、教育庁の各課の見学や、定例教育委員会の傍聴を行いました。定例教育委員会に関しては、滅多に参加できるものではないので、とても貴重な経験になりました。また、県の教育の方針を決める場なのでもっと堅苦しい雰囲気であると思っていましたが、すごく良い雰囲気で行われていてとてもすてきだと感じました。

5日目は、午前から教育庁の若手職員の方との座談会を行いました。座談会では、前日に決めたテーマをもとにお話を進めていただき、仕事内容ややりがい、ワークライフバランス、試験対策等様々なことに答えていただきました。この質問の時間は、前4日間の中である程度教育事務に関する理解が深まっている状態でスタートすることができたので、学校勤務と本庁勤務の違いについてといったように今までの活動を活かした内容の質問をすることができました。

午後は、4日間の教育政策課でのインターンシップを通して感じた「教育事務の魅力！」に関して、インターンシップ生がそれぞれ発表資料を作成し、発表を行いました。4日間で学んだことをアウトプットすることができて非常に充実した時間でした。

私自身、このインターンシップに参加する前は、教育事務と行政職の違いもわからないような状態でした。ですが、この4日間を通して多くのことを学び、教育事務に対する理解が深まり、関心が高まりました。今後の就職活動にも今回の学びを活かしていきたいと思います。

【長崎県庁 教育政策課】

私は、9月4日から9月10日までの土曜日、日曜日を除いた5日間、長崎県庁教育政策課のインターンシップに参加した。私がこのインターンシップに参加したのは、将来、公務員になることを考えていることが大きな理由である。この機会に、公務員の業務内容や職場の雰囲気等を知りたいと思い、参加した。

今回のインターンシップでは主に教育事務の方の仕事について学んだ。教育事務とは、県庁のみならず、学校、図書館、教育センターなど様々な種類の教育機関に勤務し、事務や管理業務を行う仕事である。はじめのうちは教育事務という仕事について何も知らない状態だったが、実際に学校や図書館を訪問して、多くの教育事務の方々の話を聞く機会をいただき、教育事務の業務内容ややりがい、魅力など様々な貴重な話を聞くことができた。勤務地訪問や座談会での話等を通じて、私は教育事務には主に3つの魅力があると考えた。

1 つ目は子供と触れ合うことができ、成長を間近で見ながら働くことができるという魅力である。これは特に学校勤務の場合だが、子供と関わるができる数少ない行政職であり、子供たちが近くにいる環境で元気をもらいながら、子供たちのために働くことが仕事のモチベーションだと話される方が多くいらしかった。

2 つ目は福利厚生が充実していて、プライベートな時間を確保しやすいという魅力である。有休、育児休暇等の休暇が取りやすい環境で、また、近年ではフレックス制度の導入など柔軟な働き方の推進も進んでおり、プライベートの時間をしっかり確保しながら自分のスタイルに合わせて働くことができるのである。

3 つ目は幅広い業務を担当してキャリアを積むことができるという魅力である。前述したように、教育事務は本庁、学校、図書館、教育センター等の様々な勤務地があり、その中で異動をしながら多くの業務を行うため、スキルを習得し成長しながらキャリアを積むことができるのである。

今回のインターンシップを通して公務員に対する理解が深まり、教育事務以外の仕事についても学んでみたいという考えが生まれた。また、1日目のオリエンテーションから始まり、グループワークや座談会での質問の時間、人前で発表する等の機会が多くあったが、緊張でうまく話せなかったり、積極性が足りなかったりと、自分の課題が浮き彫りになったので、この反省を今後の活動に活かしたいと思う。コミュニケーション能力、仕事に対する責任感、人との出会いを大切にすることは教育事務の仕事だけでなく、どの業界の仕事でも重要なことだと思うので今回のインターンシップで学んだことをこれからも大事にしていきたい。

【長崎県 教育政策課】

私は、9月4日から9月10日までの5日間、長崎県教育政策課のインターンシップに参加しました。私が今回のインターンシップに参加した理由は、公務員を志望しているからです。公務員の方々が地域発展に向けてどのように取り組んでいるのか、また公務員の福利厚生はどのようなものであるかなどについて知ることができるため、身をもって就業体験でき、実際に働く方の声が聴けるインターンシップの期間は非常に貴重に感じました。

実際の研修では、主に教育事務の業務内容と魅力を調査するために、様々な勤務先を見学させていただきました。そこで、多くの職員の方と座談会のような形で、より少人数で説明を受け、質問をする機会があり、さらに理解が深まりました。私が見学した勤務先は長崎県内の小学校、高等学校、特別支援学校、県立図書館、教育庁です。

小学校の教育事務は、学校ごとにたいてい一人で勤務されていました。しかし、同じ地域の学校事務員と交流する共同実施室という仕組みがあり、諫早市の共同実施室の方々と座談会を行ったのですが、とても気さくな方が多く、お互いに補い合って勤務されている関係性の方々だと感じました。

高等学校、特別支援学校の教育事務は、小学校の教育事務とは違い、複数人で分担して業務を行われていました。特に、高等学校では農業高校、特別支援学校ではろう学校を見学したので、普通高校出身の私にとってはほとんど関わる機会のなかったことを社会人になってから触れることができるという点に魅力を感じました。農業高校とろう学校特有の業務内容としては、実習会計というものです。例えば、実際に見学させていただいたものでは、肉牛、豚、鶏卵などの売上の会計事務であり、その額は想像以上に大きかったです。

県立図書館の教育事務は、本にふれあうことができるという点が特徴です。また、館長さんから、図書館は学びを提供する場所であり、学生たちだけでなく自分たちが大人になっても「学び続ける」ということが重要であるという言葉いただきました。私自身が現在学生という立場ではありますが、社会人になっても、この言葉を心に留めて様々な物事に組みこんでいきたいと思っています。

教育庁の教育事務は、上記した様々な現場の総括的な立ち位置でした。定例会議の傍聴を行った際には、非常に緊張感のある業務であったので、とても達成感のある業務であると思いました。

今回インターンシップに参加させていただき、教育事務といっても以上のような様々な勤務先があるという特徴がありました。広く県内の子供たちの手助けができ、環境も変わるため、リフレッシュができる職場であると感じます。今回得た様々なことを今後の就職活動に活かしていきたいと思っています。非常に充実した5日間になりました。本当にありがとうございました。

【長崎県 産業労働部】

私は、8月28日から9月3日までの平日5日間インターンシップに参加する予定だったのですが、台風の影響で8月28日、9月2日、9月3日の3日間長崎県庁産業労働部のインターンシップに参加しました。今回長崎県庁のインターンシップに参加した理由としては就職希望先として長崎県庁を考えていることがあげられます。また、県庁という公共部門と企業民などの民間部門同士の関わりについて以前から興味を持っていたものの、具体的なイメージが湧かなかったので、長崎県庁のことをより多く知りたいという思いから民間部門との関わりが多い産業労働部をインターンシップ先として希望しました。

1日目は全体でオリエンテーションを行いました。長崎県庁が目標としている県や県庁の姿についてお話を聞き、県庁舎の見学を行いました。また、県職員の方に質問をする時間が設けられており、県職員の方から今まで携わった業務でのエピソードや公務員試験について聞くことができました。私がお話をした職員の方は離島勤務や海外勤務、霞が関で勤務をされた方が多く、若いうちからいろんな場所で多くの経験を積むことができるところが魅力の一つだとおっしゃられていました。また、最近は積極的にフレックスタイム制やリモートワークを導入するなど働き方も自由になっているとのことでした。

2日目、3日目は産業政策課、企業振興課、雇用労働政策課、経営支援課、新産業推進課の産業労働部、新エネルギー推進室など産業労働部内の説明を聞きました。産業労働部では県内産業の発展を促進することを目標にしており、産業の発展にはヒト、モノ、カネ、情報が必要だということで、それぞれに焦点を当てた課が設置されているとのことでした。

2日目には長崎高等技術専門校に視察に行きました。長崎では製造業が盛んで、県内に製造業を営む企業を多数誘致しているとのことですが、現状としてはそこで働く人材を確保し、県内の若者に県内企業に就職してもらうことが課題のようです。そこで若者の県内就職を促進するために職業訓練を提供する場所として長崎高等技術専門校の運営や管理を県が行っているということでした。今まで長崎高等技術専門校にどのような科があるのかなど詳しいことは知らなかったのですが、長崎の産業を支える人材を育成する場所の視察に行くことができ、そのような人材育成の場が必要不可欠であるということを改めて感じました。

3日目はLD+、CO-DEJIMA、長崎県ビジネス支援プラザ、D-FLAGに視察に行きました。LD+はDX化促進のための施設で、CO-DEJIMAはスタートアップ企業がアイデアや技術を高め合う交流の場として活用されているということでした。特に視察した施設の中で印象的だったのが長崎県ビジネス支援プラザ、D-FLAGです。この2つの施設は起業したばかりの方に県の補助金により低価格でオフィスを貸し出しており、県の施策により企業して間もない方を支援している場面を直接見ることができました。また、他には起業準備の相談にも応じ、新しく起業した方のコミュニティを作る活動も行っているということでした。このような支援の場を直接提供しており、県の施策が与える影響の大きさを実感しました。

今回のインターンシップを通して長崎県庁で行っている取り組みについてより多くのことを知ることができました。この経験を就職活動に生かしていきたいと思います。

【長崎県庁産業労働部】

私は、8月28日から9月3日までの3日間長崎県庁産業労働部のインターンシップに参加させていただきました。5日間の予定だったのですが、台風の影響で3日間に縮短されましたが、長崎県庁の雰囲気や仕事内容を学ぶことができ、非常に充実したものとなりました。私がインターンシップに参加した理由は、公務員志望であり、特に地域と関わる仕事に興味があったことです。県庁の職員の方々がどのような業務を行っているのかについても興味があったからです。

一日目は、全体のオリエンテーションがあり、県庁の仕組みや働き方、長崎県の未来像について学びました。その後、県庁の職員さんとの意見交換会もありました。私は当初県庁には様々な部署があり3年ごとの移動が大変だと感じていたが、県庁の方々はいろいろなことを経験できるという県庁のアピールポイントにっていて、その点が県庁の強みだと感じました。

二日目は、産業労働部、企業振興課、雇用労働政策課で研修を受け、長崎高等技術専門校の視察を行いました。産業労働部は長崎県の特徴である半導体産業、航空機関連作業、海洋エネルギー産業に力を入れており、県内に企業を誘致しているということを学びました。公務員の業務にも民間的な側面もあり、さまざまな経験できることに魅力を感じました。ほかにも、食料品製造業の支援や波佐見焼などの伝統工芸品にかかわる仕事など様々な分野の仕事があることを学ぶことができました。

最終日である3日目は、経営支援課、新産業推進課、新エネルギー室で研修を行い、LD+、CO-DEJIMA、ビジネス支援プラザの視察を行いました。庁外視察で行った「LD+」には、最新の技術を活用した機器がたくさん展示されていて、社会問題を解決する機器が複数あり、非常に印象的でした。また、スタートアップや新しい事業に取り組む人々への支援が県によって行われていることも学びました。

インターンシップを通して、産業労働部は企業誘致、人材確保のための取り組み、波佐見焼などの伝統工芸品や商店街、スタートアップなどへの支援など様々な業務を行っていることを知り、公務員でありながら民間的な側面があることや、幅広い業務に取り組んでいる点に驚かされました。また、県庁の雰囲気や、職員さんの働き方、部署移動のことなど、多くの新しい発見があり、県庁の良さを実感し、イメージが大きく変化しました。職員さん誰もが長崎をよくしようという思いを強く持っている点も印象に残りました。インターンシップに参加したことで、地域のために働きたいという思いが強まり、インターンシップで得た発見をもとに就職活動に取り組んでいきたいと思いました。

【長崎県庁 税務課】

私は、8月28日(水)から9月3日(火)までの5日間長崎県庁税務課でインターンシップ研修をさせていただきました。私がこのインターンシップに応募した理由は将来国税専門家になりたいと考えており、税金の知識をもっと深めたいと思ったことと、税務部の業務内容に興味を抱いたからです。

研修先では様々な業務体験を通し、職場での雰囲気や業務への理解を深めるほか自分の成長へつなげることができる機会になりました。2日目の午前中に長崎振興局税務部で現場研修を行いました。一通り税金に関する説明を受けた後、車のロックキーをはめる体験をしました。初めての体験で、街中で実際に見たことがないような体験をしました。ロックキーの役割、公示書の必要性を学ぶことが出来ました。次に私は納税課の担当だったので直接銀行に行き、税金の差し押さえを行いました。差し押さえを行うまでの経緯と差し押さえの現場の流れ、そして差し押さえた現金が今後どのような流れで取引されるのかを知ることが出来ました。その後管理班の主な業務について担当の方からお話を聴くことが出来ました。話の中で特に印象に残ったのは納税証明書作成時の手数料の支払いに電子決済があまり使われていない点です。短い時間でしたが納税課の仕事を体験できてよい勉強になりました。

最終日は午前中に県庁で県税のしおりを使って県税の内容を一つずつ学習しました。特に印象に残っている税金は地方消費税です。今まで消費税は一つだと思っていたが、消費税には地方消費税が含まれていることを知りました。また、地方消費税の考え方、清算、交付の仕組みを学ぶことができ、各都道府県の地方消費税を理論値で計算して再分配しているときき、これからもっと画期的な仕組みが生まれるのではないかと感じた。午後からは税関に行き、税関の歴史や仕事内容を学ぶことができました。正直税関の存在を知ってはいたものの、仕事内容をあまり理解していなかったので勉強になりました。

3日間のインターンシップ経験で長崎振興局税務部や長崎税関の貴重な業務を体験する機会になりました。インターンシップの間では質問する機会がたくさんあり、自分に足りないものを再認識することができました。今回のインターンシップで培った経験を今後の就職活動に活かしていきたいと思います。

【長崎県庁税務課】

私は、長崎県庁税務課のインターンシップを体験しました。あいにく、台風の影響で5日間の予定が3日間に変更となったことは残念ですが、その分充実した3日間を過ごすことができました。インターンシップを通して、実際にインターンシップに行ってきたと思うことは、仕事場の雰囲気や、職員の人柄を知ることができたという点です。インターンシップに行く前は、県庁というものに堅いイメージがあり、そこで働く方々もそのようなイメージを持っていましたが、実際に行ってみると、当初のイメージとは大きく異なり、優しく配慮のある方々ばかりで、人間関係もいい印象を受けました。職場の雰囲気も、明るくて働きやすいという印象を持ちました。何より、課税班や市町村税班など、4~6人一組となって、協力して支え合いながら働いており、グループとして一丸となって仕事に励んでいて魅力に感じました。

また、県庁で業務体験も行うことができ、電話対応やチラシ配布のサポート、ポスター作りなど、雑務ではあったものの、様々なことを体験でき、いい機会をもらうことができたと思います。2日目には、長崎振興協税務部にお邪魔し、現場体験を行うこともできました。そこでは、不動産所得税というより専門的なことを学び、現場で働いている人がどのような考えをもって働いているのか、よりリアルに感じることができました。現場体験では、不動産取得税における非用途課税というものに関して、グループホームで障害者介護以外の目的で使っていそうな場所はないかをチェックするという現場体験をしました。このような専門的な体験をすることができ、インターンシップを申し込んでよかったと感じました。

3日目には長崎税関を見学しました。麻薬取り締まりに関する過去の事例や、麻薬探知犬、知的財産侵害物品などが特に印象に残りました。有名ブランドのバッグ、時計の偽造品の展示を実際に見ましたが、ほとんど違いがなく、このような偽ブランドの持ち込みを見極めている税関のセキュリティの高さに驚きました。

今回のインターンシップを通して、まず県庁の仕事場の雰囲気や人間関係を感じることができたことは、いい機会になったと思いました。また、現場の方々と接したことや実際の業務体験を通して、協力することの重要性を改めて感じました。一人で仕事をこなすには限度があり、複数人で手分けして案を出し合って、ノルマに向けて協力して励むことが、ノルマ達成につながるのだと思いました。このインターンシップでの体験を今後の糧にできるように、頑張っていこうと思います。

【長崎県 総務部 税務課】

私は、8月28日から9月3日までの5日間、長崎県庁総務部税務課のインターンシップ研修に参加しました。私がインターンシップに参加した理由として、将来公務員になることを目標として考えていることが挙げられます。県職員の方々がどのような仕事をしているのか自分の目で見て、実際に業務の体験をしようと思って、長崎県庁のインターンシップに参加しました。

1日目はオリエンテーションが行われ、ワークライフバランスや県庁の現状、採用試験についてのお話がありました。また、若手県職員との意見交換会や同じ長崎県庁のインターンシップ生とグループワークを行いました。オリエンテーションでは、自分が長崎について知らなかったことや実際に働いている職員の話が聞くことができ、貴重な経験となりました。

2日目、3日目は台風10号の影響で中止となり、4日目から税務課に配属されることになりました。4日目の午前中は長崎振興局税務部の方で現場研修をさせて頂きました。税金の種類や税金に関する業務についての説明を受けた後、実際にタイヤロックによる車の差し押さえを行いました。タイヤロックの体験をした後、私は課税第二課の方で業務を行いました。課税第二課の業務や担当税目の概要についての説明を受けた後、不正軽油を見分けるための採油分析を行いました。採油分析では、水酸化ナトリウムなどの試薬を用いて、不正に製造された軽油かどうかを調べることができました。長崎振興局税務部では、税の徴収などを知り、普段できないような体験をさせていただきました。午後からは、県庁に戻りExcelを使った業務をさせて頂きました。私は、普段Excelの操作をする機会がなく、Excelに数値を記入するのに思ったよりも時間がかかってしまい、社会人になる前にパソコンの操作に慣れておく重要性を学ぶことが出来ました。また、Excelの業務が終わった後、電話対応を行いました。電話対応では、社会人のマナーやルールを学ぶことが出来ました。

5日目は、午前中は長崎県の県税についての講義がありました。地方消費税や県たばこ税、ゴルフ場利用税などの県税のしくみについて学ぶことが出来ました。午後からは長崎税関で見学をさせて頂きました。長崎税関では、税関の歴史や仕事について学ぶことが出来ました。また、長崎税関を訪問してみて、税関の仕事について興味を持ちました。税関の見学を終えた後、県庁に戻り、事務作業を行ってインターンシップを終えました。

今回のインターンシップを通して、公務員の仕事について多くのことを学ばせていただきました。インターンでの経験を今後の就職活動に活かせるよう頑張りたいと思いました。また、今回インターンシップを受け入れてくださった長崎県庁の職員の方々のおかげで非常に充実した経験になったと思います。本当にありがとうございました。

【長崎市教育委員会健康教育課】

私は今回長崎市教育委員会健康教育課のインターンシップに参加しました。

今回の研修内容はインターハイのアーチェリー競技の大会運営の補助を行うものでした。

長崎市役所ではなく初日から運動競技場での研修で、デスクワークではなく体を動かすことが多かったインターンシップでした。ハードな内容でしたが、職員の方々もお忙しい中、気にかけてくださり、楽しく活動することができたと感じています。

長崎市役所のインターンシップでしたが、行政職にもかかわらず、大きな大会の運営などにも携わることをすることができました。

このインターンシップで経験したことを今後の自分の活動に活かしていきたいと思います。

【長崎市広報広聴課】

今回のインターンシップに参加した動機は大きく3つある。1つ目は、私は今現在公務員を志望しているため、公務員が実際にどのような業務をしているのかを知りたいと思ったこと。2つ目は、志望している職業の実務経験を少しでも積みたかったこと。そして3つ目は、面接で話すことができるようなエピソードが欲しかったということ。

今回のインターンシップを通じて学んだことはいくつかあるが、一番は「広報」といっても業務が多岐にわたっているということである。これは「広報広聴課」に関わらず、他の部署あるいは他の企業であっても同じようなことが言えると思う。「こういう名前だからこういった業務が中心なんだろうな」という考え方ももちろんあるが、名前からはあまりイメージできないような業務まで行っていたりするから、これから就職先を選択するにあたり、自分がやりたいことはここでしかできないというような考えはあまり持たない方がいいと感じた。

具体的な実務経験を積ませてもらう中で感じたことは、一見単純な作業であったとしても、考えることが多く、必要な情報を簡潔にまとめる力が求められるのだということ。また、常に情報を収集しておかなければいけないということ。これらはこれからの学校生活の中で意識することで磨いたり、身に着けることができると思うから頑張っていきたい。

今回のインターンシップで、自分に足りていない能力や意識すべきことなどが浮き彫りになったと感じた。残り少ない学生生活を有意義なものにしていきたい。

【長崎市役所情報推進部 DX 推進課】

私は今回のインターンシップを通じて、仕事とはどういったものか、本質を教わりました。

私がインターンシップで行かせていただいた長崎市役所情報推進部 DX 推進課の仕事は、市役所内外問わない多岐にわたる内容で、施策について触れさせていただける機会がありました。また、デジタルトランスフォーメーションという、ここ数年で重要度や注目度が大きく増加したジャンルなので、まだ決まった答えができていないため、トライアンドエラーの繰り返しとなっていました。実際、私のインターンシップ期間中にも会議や打ち合わせで、うまくいってない部分や失敗した部分なども教えていただいたり、目にしたりということがありました。その中で、DX 推進課の方々が仰っていたことが、施策を考える際にまず目的を明確にしているので、失敗したりうまくいかなかったりしても、目指している部分がぶれることはないようにしている、ということでした。

また、インターンシップで作業を振られた際に言われたことが、仕事は求められていることを見極めることが重要だということでした。仕事内容の質も、終了させるまでの時間もどちらも両立させることができることが理想だが、仕事の期限が近い時は、時間を守ることが重要になるように、求められていることを見極めることが仕事だと言われました。

これらの話を受けて、私は仕事に対する自信を持ち、効果的に業務を遂行する重要性を知り、仕事の本質を知ることができたと思います。

【長崎市消防局】

私は、長崎市消防局のインターンシップに参加し、様々な経験を積むことができた。

消防局の事務の仕事内容を知った。模擬 119 番受報訓練は緊張感があり、とても貴重な体験だった。現場で活躍する方たちを支える仕事が見られてよかった。予防査察の見学をさせてもらい、建物がどのような防火対策をおこなっているのか、どのような防火対策を行うべきであるのかを知ることができた。配備車両説明で実際に消防車に乗せてもらい、器具の様々な装備を見ることができた。また、資器材取扱要領ではプレス機などを実際に使用できて楽しかった。救命講習は中高生の時にしたことがあったが、要領を完璧に覚えていなかったもので、今回はしっかりと学ぶことができたのでよかった。現場衣装着では、こんなに暑く重い者を着ながらきつい作業を行うことに驚いた。放水を実際に体験させてもらいいい経験になった。呼吸器マスクをつけて動くという体験をした、活動時間が約 20 分ときいて短いと感じた。ロープを使った救助活動ではなるべく小さな力で人を救助できるようにしている工夫があった。はしご車のかごに乗車し、35m 上がるという体験でこのような高いところで人を救助する大変さを感じた。ロープの結び方・救助者の運び方を学習した。もやい結びが何度やってもうまくいかず、難しいと感じた。放水訓練では、水の強さや水の飛ばし方を変えたりして自分が狙ったところに飛ばす難しさを味わった。消防学校で教官をされていた方たちのお話を聞き、消防学校の雰囲気などを知ることができてよかった。様々な経験や仕事をされている方たちに多くの質問、多くの話を聞くことができ、消防についてより深く知ることができた。

インターンシップを通じて現場の方たちがどれだけ大変で、高い技術を持っているのかを肌で感じることもできた。大変な作業を軽々とこなしていく姿は改めてかっこいいと感じた。また、イメージにはなかった消防の事務の仕事を見学させてもらい、裏方で多くの人たちが支えているおかげで現場で働く人たちがのびのびと仕事ができていることがわかり、勉強になった。私は就職を警察か消防で悩んでいます、消防への気持ちが大きくなったと思います。また、今回のインターンシップで学んだことは、就職活動や今後の私生活においても大いに役に立つ内容であったのでしっかり活用していきたいです。

参考資料

学期／Semester	2024年度／Academic Year 前期 ／First Semester	曜日・校時／Day・Period	他／Oth. 0
開講期間／Course duration	2024/04/01～2024/09/29		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20241508005751	科目番号／Course code	15080057
科目ナンバリングコード／Numbering code	ECET 31361_007_7		
授業科目名／Course title	インターンシップ☆／Internship		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	神 菌 健次／Kamizono Kenji		
授業担当教員名（科目責任者） ／Instructor in charge of the course	神 菌 健次／Kamizono Kenji		
授業担当教員名（オムニバス科目等） ／Instructor(s)	神 菌 健次／Kamizono Kenji		
科目分類／Course Category	コース別科目, 自由専門科目		
対象年次／Intended year	3	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room			
対象学生（クラス等） /Intended year (class)			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	k-kamiz@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Office	経済学部本館6階611		
担当教員TEL/Tel	095-820-6377		
担当教員オフィスアワー/Office hours	随時（事前にメールでアポを取る）		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	企業・団体・事業所等における一定期間の就業体験を行い、実社会の体験を通し、社会人となった際の心構えなどを教授することを目的とします（工場見学を主とするような研修、調査・研究そのものを目的とするような研修などは、単位として認めません）。		
授業到達目標/Course goals	経済学部HPの「受講の手引き（学部）」にある「カリキュラム・マップ」をご覧ください。 インターンシップ☆は次のDPを授業到達目標としています。 DP1：基礎的教養と現代経済社会に関する幅広い知識とそれらを駆使した思考方法・技術を身につけている。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（1つ以上3つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course（pick 1 to 3）	☒ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☐ 多様性の理解／Understanding Diversity ☐ 主体性／Autonomy ☒ 協働性／Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☐ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☐ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☒ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	日録、レポート及びインタビューにより総合評価します。		
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	受け入れ先企業やその業界について事前学習するとともに、インターンシップを通じて何を学びたいか、何をゴールとするか、自ら考えておくこと（計30時間）。		
キーワード/Keywords			
教科書・教材・参考書/Materials	【参考URL】 長崎大学経済学部の就職支援 http://www.econ.nagasaki-u.ac.jp/under_g/job_info.html 先輩たちの「インターンシップ報告書」（PDF形式）を見ることができます。		
受講要件（履修条件）/Prerequisites	上記、授業内容の【受講要件（履修要件）】を参照		
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)			
備考（URL）/Remarks（URL）	第1回インターンシップ説明会（5月上旬予定）、第2回インターンシップ事前指導（7月下旬予定）、第3回インターンシップ事後指導（9月下旬予定）の実施形態は未定です。決まり次第、掲示により通知します。 派遣先企業については大学が紹介することになっているが、受講生が自ら開拓した企業・団体の場合であっても、一定の条件を満たしていれば、本講義での単位認定の対象となることがある（学生による自己開拓）。単位認定の条件など詳しくは、学務係に問い合わせること。但し、その場合であっても、「第1回 インターンシップ説明会」には必ず出席していなければならない。		

学生へのメッセージ/Message for students	社会から見ればまだ極めて未熟な大学3年生は、社会で活躍する「大人」との接触により急速に成長することができます。本当は、予定調和的なインターンシップ科目ではなく、自分で企業によるインターンシップを開拓し（ネット等で自力で探索する）、他地域・他大学の大学生と切磋琢磨することを強く勧めます。この矛盾したメッセージに、本来のインターンシップというものの重要性を知ってください。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細/Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容/Contents
	【授業内容】 ●『第1回』：インターンシップ説明会（5月上旬開催予定：別途掲示により通知する。） 受講にあたっての心構え、留意点等に加え、受講者の決定に関する諸手続きの詳細について説明する。なお、当該説明会に出席していない者は、本講義を受講することができない。 ※7月開催予定のインターンシップ事前指導迄に、受講者の選考を行う。選抜方法は以下の【受講要件（履修要件）】および【選抜方法】を参照すること。 ●『第2回』：インターンシップ事前指導（7月下旬開催予定） 派遣に先立ち、当該科目の趣旨の徹底、経済学部を代表しての派遣であること等を認識させるための講義を実施する。 ●『第3回』：各派遣先企業において実習（8月上旬～9月中旬頃） 各派遣先における実習内容をレポートにまとめ、実習の記録（日録）、その他必要な書類とともに、期限までに提出すること。 ●『第4回』：インターンシップ事後指導（9月下旬） 成績評価のための個別面談を実施する。学生が提出したレポートおよび実習の記録に基づき、教員（就職委員会委員）がヒアリング等を行う。成績評価は、レポート内容と面談の内容に基づき就職委員長名で行う。 ----- 【派遣学生の留意点】 ●他の夏季集中講義、部活動を優先させること及びその他による、受講の取りやめ、欠席、計画の変更は絶対に認めない。 ●派遣先企業等への就職活動そのものではないことを自覚すること。また、アルバイト感覚で実習に参加しないこと。 ●研修期間中は、研修先での指導・指示に従う。正規の職員・社員と同じであることを自覚すること。 ●研修先から課される課題を、遅滞なく行うこと。 ●研修先に損害を与えてしまったときに備え、「学研災付帯賠償責任保険」（またはこれに類する内容の保険）に加入すること。 ●無報酬とし、食事代・交通費も受講学生の自己負担を原則とする。 ----- 【受講要件（履修要件）】 ●対象学年は原則として3年生であり、かつ専門ゼミに着手していること。 ●大学が行う健康診断を受診していること。（大学の健康診断を受診していない場合は、病院や保健所等において同等の健康診断を受診すること。） ●インターンシップ説明会に参加していること。 ●原則として、事前・事後指導及び実習期間と日程が重複する科目等（夏季集中講義や短期海外研修など）との重複履修は認めない。事前に自身のスケジュール等を調整した上、期間の重複が予想される場合はエントリーをしないこと。 ●インターンシップ説明会、事前指導では、遅刻や中途退出は原則認めない。 ----- 【選抜方法】 ※いずれも、5月上旬開催予定の「第1回 インターンシップ説明会」に出席していることを要件とする。 ●長崎インターンシップ推進協議会による斡旋企業については学生が提出する申込書（エントリーシート）に基づき同協議会でマッチングが行われる。 ●経済学部独自開拓企業については、受講希望者に派遣希望先を第3希望まであげさせ、出来る限り希望を満たすよう調整する。各事業所において、受講申し込み数が受け入れ可能数を上回った場合は、2年次までに取得した専門教育科目の評価を数値化し、その平均点により順位を算出し、上位の者を優先する。 ●学生による自己開拓企業については、学生による申請に基づき、一定の条件を満たしていることを就職委員会が審査し、派遣の可否を決定する。単位認定の条件など詳しくは「第1回 インターンシップ説明会」で確認するか、学務係に問い合わせること。

2024年度インターンシップ 経済学部独自実施分受入企業一覧

整理 番号	受入企業等	住所	受入 人数	期間 (開始)	期間 (終了)	日数	概要
E-01	長崎財務事務所・長崎税関	長崎財務事務所 長崎市筑後町3番24号 長崎税関 長崎市出島町1番36号	4	9/9(月)	9/13(金)	5	○1日の実習時間: 9時00分 ~ 17時00分 (休憩: 12時00分 ~ 13時00分) ○主たる実習場所: 長崎財務事務所及び長崎税関<長崎財務事務所3日、長崎税関2日を予定> ○実習内容: 業務説明、現地視察(国有財産等)、業務体験 ※ 上記のほか、長崎税務署、日本銀行長崎支店等の業務説明、訪問・体験(令和5年度実績) ※ 業務内容は以下のとおり 長崎財務事務所: 地方公共団体への資金の貸付、経済調査、金融機関の監督、国有財産の管理処分 など 長崎税関: 輸出入貨物の審査・検査業務、船舶・航空機及び入出国旅客等の検査・取締業務、関税等の徴収業務 など
E-02	IG会計グループ	長崎市元船町14-10 橋本商会ビル4F	5	8/19(月)	8/23(金)	5	○1日の実習時間: 9時30分 ~ 17時30分 (休憩: 12時00分 ~ 13時00分) ○主たる実習場所: 所在地と同様 ○実習内容: オリエンテーション(会社説明・租税教室)、中期5か年経営計画策定セミナー参加(担当者が経営者と打合せしながら経営計画を作成する形式で、そちらに同席することで会計コンサルタント業務を体感することができます)、顧問先への同行訪問(監査・決算・経営会議他)、その他所内作業(税理士業務の仕事体験・資料作成他)、先輩社員との座談会(入社1-5年目)、フィードバック
E-03	株式会社デンソーソリューション九州支社	福岡市博多区山王2丁目6-35	3	9/2(月)	9/6(金)	5	○1日の実習時間: 9時00分 ~ 18時00分 (休憩: 12時00分 ~ 13時00分) ○主たる実習場所: 九州支社 (福岡県福岡市博多区山王2-6-35) ○実習内容: 営業会議参加、営業同行、法人営業体験グループワーク、プレゼン等 ※詳細は別途添付のスケジュール参照ください ※対面4日・WEB1日のハイブリッド型で実施予定です
E-04	株式会社 不動技研ホールディングス	長崎市飽の浦町5-3 菱興ビル本館1F	1	8/26(月)	8/30(金)	5	○1日の実習時間: 8時 00分 ~ 17時 00分 (休憩: 12時00分 ~ 13時00分) ○主たる実習場所: 長崎市飽の浦町5-3菱興ビル本館1F ○実習内容: ①総務業務、経理業務支援(社内報作成、郵便物管理、資料作成など) ②新卒採用活動支援 ③経営企画支援(職場改善PJ資料作成、など) ④プレゼン演習

2024年度 経済学部「インターンシップ」

経済学部独自実施分

長崎県実施分

インターンシップ説明会(11講義室)

5月8日(水) 14:30～

企業情報を公開:**5月13日(月)**

企業情報:県HP、キャリアセンターHP

エントリーシート期限:**5月31日(金)**

エントリー期限:**5月14日(火)**

企業とのマッチング【経済学部】

企業とのマッチング【長崎県】

結果公開:**6月末日頃**

結果公開:**5月27日(月)**

受入日程調整:**5月27日(月)～**

自己紹介書・誓約書の提出

(応募状況によっては2次募集を実施)

インターンシップ事前指導(11講義室)

7月17日(水) 14:30～

長崎県による事前研修セミナー
(動画配信で実施予定)

インターンシップ実施期間
8月5日(月)～9月6日(金)

レポート・日誌の提出

9月18日(水) 15:00(厳守)

インターンシップ事後指導

(予定) 9月25日(水) 9:00～